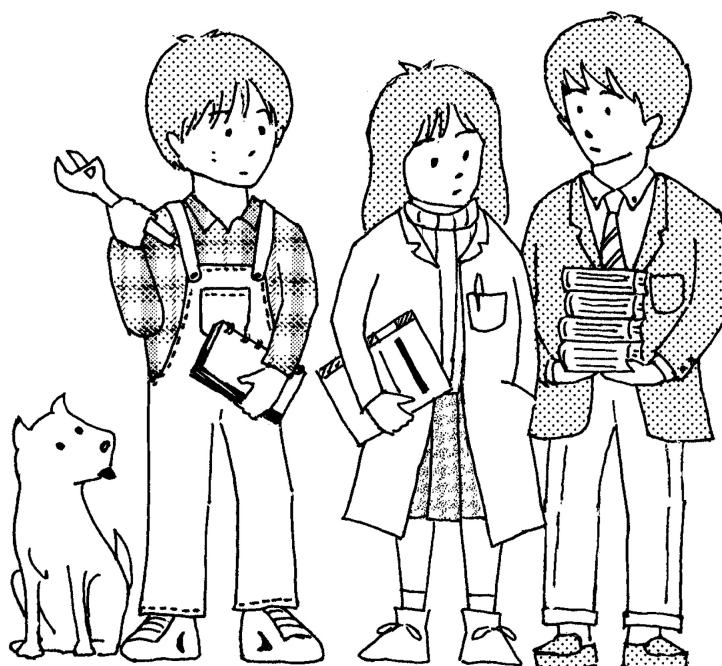


SYLLABUS

2010

[B] 建築学科



京都大学工学部

[B] 建築学科

建築学科

230104 基礎情報処理演習	1
22012 基礎情報処理	2
40510 建築工学概論	3
40570 日本都市史	4
40640 世界建築史	5
40610 設計演習基礎	6
40050 建築計画学 I	7
40060 住居計画学	8
40160 建築設計論	9
40070 設計演習 I	10
40080 設計演習 II	11
40090 建築環境工学 I	12
40100 建築環境工学 II	13
40110 建築構造力学 I	14
40120 建築構造力学 II	15
40210 建築生産 I	16
40130 建築材料	17
40430 建築・都市行政	18
40590 建築情報処理演習	19
21020 工業数学 C	20
40170 都市設計学	21
40180 建築設備システム	22
40190 鉄筋コンクリート構造 I	23
40200 鉄骨構造 I	24
40220 建築構造力学 III	25
40530 行動・建築デザイン論	26
40580 日本建築史	27
40280 建築生産 II	28
40290 建築論	29
40300 都市・地域論	30
40520 都市環境工学	31
40320 建築光・音環境学	32
40600 建築温熱環境設計	33
40340 建築構造解析	34
40360 耐震構造	35
40370 鉄筋コンクリート構造 II	36
40380 鉄骨構造 II	37
40390 設計演習 III	38
40400 設計演習 IV	39

40540 建築応用数学	40
40550 建築情報システム学	41
40270 建築計画学 II	42
40410 景観デザイン論	43
40350 建築基礎構造	44
40420 耐風構造	45
30011 地球工学総論 (地球工学)	46
40440 設計演習 V	47
40450 構造設計演習	48
40460 構造・材料実験	49
40470 建築安全設計	50
40630 建築環境工学実習	51
40230 建築環境工学演習	52
40650 専門英語	53
40720 建築造形実習	54
21050 工学倫理	55
21010 グローバルリーダーシップ (序論)	56
22000 グローバルリーダーシップ (英語演習)	57
22100 グローバルリーダーシップ (工学とエコロジー)	58
22200 グローバルリーダーシップ (工学と経済)	59
24000 グローバルリーダーシップ (セミナー)	60
25000 グローバルリーダーシップ (セミナー)	61

基礎情報処理演習

Exercises in Information Processing Basics

【科目コード】230104 【配当学年】1年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・1時限

【講義室】3号館第1, 第2演習室 【単位数】1 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】瀧澤・吉富

【講義概要】コンピューター（Windows系OS）を使った情報収集，電子メールによる情報伝達，ワープロソフトによる文書作成，表計算ソフトによる表作成や計算，プレゼンテーション支援ソフトによる資料作成など，学習に役立つ技術を習得する。（情報処理教育I群科目）

【評価方法】ほぼ毎回の演習時間内で課題を与えて，レポートを提出させる．その他，2回の中間テスト（実技）を実施する．これらのレポート，中間テストの点数および，演習への出席状況により成績を評価する．成績配分は出席20%，各回課題30%，試験50%とする．

【最終目標】パソコンを用いた情報収集や文書・プレゼンテーション資料作成の技術を習得し，学習に役立てることが出来るようにする．

学科で掲げる学習・教育目標の中の，A1 コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力，B1 科学的問題解決能力，D1 問題発見・解決能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
ガイダンス、WWWの利用	2	履修内容全般のガイダンス．パソコンの起動、ログオン・ログオフの方法の習得．World wide web を利用した情報検索．情報セキュリティについて．
電子メールの利用	1	電子メールの使用法（送信，受信，保管，署名，ファイルの添付方法）ならびに日本語入力方法を習得する．
日本語入力・ワープロ	4	ワープロソフトによる文書作成（書式設定，式入力，表作成，図の挿入など）の実習を行う．本項目終了時には中間テスト（実技）を行う．
スプレッドシート	6	スプレッドシートの使用方法（シートの新規作成，セルへの入力・書式設定，数式入力・計算，グラフ作成など）を習得し，表計算，数値計算の実習を行う．また，関数を用いた計算，マクロの登録と使用などを通じて簡単なプログラミングについて学ぶ．本項目終了時には中間テスト（実技）を行う．
プレゼンテーション	1	プレゼンテーション用ソフトを使用した資料作成，ならびにプレゼンテーションの方法を習得する．

【教科書】なし．演習中に資料を適宜配布する．

【参考書】なし

【予備知識】受講者は，学術情報メディアセンターの利用登録を済ませておくこと．

【授業 URL】

【その他】

基礎情報処理

Information Processing Basics

【科目コード】22012 【担当学年】1年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・1時限 【講義室】工学部3号館北棟4階 N7

【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】 【担当教員】上原哲太郎（学術情報メディアセンター）

【講義概要】コンピュータとネットワークの基本的な仕組みや原理を学ぶ。特にデータ処理やプログラミングを通じて、今後の研究に役立てることができるような基礎的な知識を修得する（情報処理教育II群科目）。

【評価方法】期末試験（8割程度）とレポート（2割程度）により評価する。レポートとしてはミニットペーパーと呼ぶ、講義毎に理解度確認のために5分程度の時間を割いて記述・提出するものと、講義期間内に1～2回提出させるものがある。

【最終目標】B1 科学的問題解決能力、D1 問題発見・解決能力、D2 独創的視点の修得

【講義計画】

項目	回数	内容説明
情報通信技術と工学・建築学	1	コンピュータをはじめとする情報通信技術が社会とどのような関わりを持ち、建築学を含めた他の工業技術にどのように寄与しているか、その役割について解説する。
コンピュータの構造	1	コンピュータの基本的構成について概念を解説する。ハードウェアの基本構成要素であるCPU、メモリ、補助記憶装置およびI/Oについて延べ、メモリ参照の局所性とキャッシュの原理について解説する。実際のパソコンの中身の解説なども触れる。
情報の表現	2	あらゆる情報がいかにデジタル情報として表現されるかを概説する。数値の2進表現、文字コード、情報量の概念と簡単な圧縮技術、A-D変換、マルチメディアデータの構造、誤り訂正符号など。
システムソフトウェア	1	OSなどシステムソフトウェアの概念、プログラミング言語の種類について述べる。
アルゴリズム・データ構造とプログラミング	4	配列やリスト、木構造といったデータ構造という概念、アルゴリズムという概念と並列処理について述べる。さらに、実際のプログラミングについて例を挙げて概説する。
通信技術とインターネット技術	3	現在主要なネットワーク技術であるインターネット技術について概説する。OSIモデル、パケット通信の基礎、ルーティングの概念、TCP/IPの基礎、メールやWWWの仕組みなど。
情報セキュリティの基礎	2	暗号や認証の基本的仕組みと、現在のインターネット上で使われている情報セキュリティ技術について解説する。
情報倫理	1	コンピュータやネットワークを使用する上で基礎となる権利概念と倫理、関係法について解説する。情報セキュリティの概念、ウイルスやハッキングの脅威、知的財産権の概念、不正アクセス禁止法や著作権法の関連部分など。

【教科書】講義中に資料を配布する。

【参考書】富田眞治、藤井康雄『大学生の新教養科目情報社会とコンピュータ』（昭晃堂）ISBN 4-7856-3153-8

【予備知識】基礎情報処理演習（23011）を履修済みであることが望ましい。また本講義で予定している情報倫理の講義に関連して、下記の情報セキュリティに関するe-learning講義（<https://el.iimc.kyoto-u.ac.jp/infosec/>）を、本講義の受講期間中に受講すること。そのため、学術情報メディアセンターの教育用コンピュータシステムのアカウントを取得しておくこと。このアカウントは後述のWebCTやKULASISでも利用する。

【授業URL】<http://uehara.tetsutaro.jp/?literacy>

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

[オフィスアワー（質問の受付等）] 質問は講義支援システムWebCT（<https://cms.ecs.kyoto-u.ac.jp>）内の質問用掲示板または電子メールを利用する。レポート提出もこのシステムで受け付ける（詳しくは講義用ページ（<http://uehara.tetsutaro.jp/?literacy>）を参照のこと）。

建築工学概論

Introduction to Architectural Engineering

【科目コード】40510 【配当学年】第1学年 【開講期】後期 【曜時限】火曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義および演習 【言語】

【担当教員】上谷(宏)・金子・(防災研)中島・(防災研)川瀬

【講義概要】建築に関する各種構造(木構造、鋼構造、鉄筋コンクリート構造、合成構造等)の概説、建築を構成する構造材料の諸特性、および建築の構造原理について講述する。その際に、建築物に作用する各種外乱(自然環境と人工環境)の性格・特徴と建築構造の応答、建築空間に対する目的性能と構造の構成原理の關係に重点を置いて説明する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】建築構造の学習を始める入門段階において、必須の基礎知識と基本的考え方、学問体系の成り立ちについて習得する。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築構造力学と構造設計	4	建築構造物は様々な荷重の作用によって変形し、内部にはそれに見合った力が発生する。構造物のこうした振る舞いを支配する力学法則や、これを予測するための建築構造力学の基礎事項を出来るだけ数式を使わずに解説する。変位と変形、力の釣合、力と変形、梁や柱などの構造要素の力学特性、骨組構造やシェル構造といった各種構造物について論じる。
荷重、耐震設計	3	建築物に作用する荷重の種類と内容について概説する。我国は世界有数の地震国であることから、地震に対して安全な建築構造物をいかにして設計するかは最も重要な課題である。地震の発生機構、地盤内の波動伝播、建物の揺れについて説明し、耐震設計の基礎的考え方をわかりやすく解説する。
鉄骨系構造	3	a) 鉄骨系構造の材料である鋼の原料、製鐵技術とその歴史、鋼材の物性、b) 鋼材からなる建築物の実例やその構造詳細、c) 設計から施工に至る手順と施工の実例について解説する。耐震構造や免震構造の原理をわかり易く説明し、建物の揺れを低減させるための各種ダンパーを紹介する。
建築構造材料、コンクリート系構造	4	建物を構成する主要材料である鉄鋼、コンクリート、木材などの基礎知識を講述する。RC, SRC, CFT などコンクリートと鉄鋼の合成構造について、基礎となる構造原理、自重、積載荷重および地震荷重に対する抵抗の原理、実建築物の構造詳細を解説する。

【教科書】構造用教材(日本建築学会)

【参考書】担当教員が各々講義プリントなどの教材を配布する。

【予備知識】専門に関する予備知識が無くても理解できる内容の講義。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 講義時間中に指示する。

日本都市史

History of Japanese Urban Space

【科目コード】40570 【配当学年】1年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】山岸常人

【講義概要】日本の都市及びそこに居住する人間の生活と活動の場である住宅の歴史の特質を、アジアやヨーロッパと比較しつつ理解することを目的とする。さらに歴史的所産である都市とそこに立つ建築の保存と継承についての考え方を講ずる。

【評価方法】レポート試験により行う。

【最終目標】日本の都市と住宅の歴史について概要を習得し、現在と未来の社会を形成するための基軸を身につける。

学科で掲げる学習・教育目標の中の、B．専門知識と基礎知識、B2．建築の設計・計画的側面の理解能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
総論	1	1、日本建築の基礎的構造
古代	4	2、先史時代住居
		3・4 古代の都市
中世	3	5、古代上層住宅
		6・7、中世都市
近世	1	8、中世上層住宅
		9、近世都市と城郭
比較	2	10 近世武家住宅と民家
		11、中国・朝鮮半島の都市
保存問題	2	12、ヨーロッパの都市
		13・14、文化財の保存と歴史的環境の保全

【教科書】日本建築学会編『日本建築史図集』（彰国社）

【参考書】高橋康夫他編『図集 日本都市史』（東京大学出版会、1993年）

都市史図集編集委員会『都市史図集』（彰国社 1999）

【予備知識】日本史の基礎的知識をもっていることが、講義の理解に不可欠である。

【授業 URL】

【その他】[教育目標] 基礎知識と専門知識 [成績評価] レポート試験により行う。 [オフィスアワー] (質問等の受付) 火曜日 12:00-13:30 [対応する学習・教育目標] B．専門知識と基礎知識 B2．建築の設計・計画的側面の理解能力

世界建築史

History of World Architecture

【科目コード】40640 【配当学年】第3学年（後期）全学科目としては各学年 【開講期】後期

【曜時限】月曜三時限 【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無

【講義形態】講義 【言語】 【担当教員】山岸常人

【講義概要】ギリシア・ローマに源を発する主としてヨーロッパの建築の歴史と、日本と密接な関係を有す東洋の建築の歴史について論ずる。建築の多様性、政治体制や文化的背景と建築の空間との関係、そして、各時代の建築的特質や建築思潮が、どのように現代建築の動向を規定しているかを理解させることを目的とする。

【評価方法】レポート

【最終目標】 B. 専門知識と基礎知識 B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力 E. 国際的視野 E1. 多様な社会制度において建築行為を位置づける能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
中国	4	1. 中国の仏教建築 2. 中国の宗教建築（仏教以外） 3. 中国の宮殿と墓 4. 中国の民居
朝鮮半島	2	5・6、朝鮮半島の建築
インド	1	7、インドの建築
ヨーロッパ		8、古代ギリシアとローマ 9・10・11. ロマネスク・ゴシック 12・13. ルネサンス・バロック 14. 18・19世紀の建築

【教科書】『西洋建築史図集』三訂版、日本建築学会編、彰国社刊

『東洋建築史図集』日本建築学会編、彰国社刊

【参考書】森田慶一『西洋建築入門』、東海大学出版会

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[質問等の受付] 月曜 10 時 30 分 ~ 12 時 00 分（建築学科本館二階少人数ゼミ室）

設計演習基礎

Atelier Practice of Architectural Design, Basis

【科目コード】40610 【配当学年】1年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・4、5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N7・製図室1 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】高松、高取

【講義概要】近代建築の代表的な作品の図面読解・図面作成・模型制作などを通して、建築形態と空間構成の基本的な把握を行うとともに、製図法やプレゼンテーションの基本的技術を習得する。

【評価方法】提出作品により行う

【最終目標】A. 総合能力、A1. コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築ドローイング (立面もしくはアーク ソノメトリック)	6	実例をもとに、鉛筆による初歩的な建築ドローイングテクニックを習得するとともに、ドローイングを通してそれらの建築の理論、構成、美しさを学ぶ。
模写および習作	6	ミース・ファン・デル・ローエによる不朽の名作「バルセロナ・パビリオン (German Pavilion, International Exposition, Barcelona)」の図面及び模型の作成を通じて、建築の基本的な構成とその美しさ、及びその論理性を学ぶとともに、得られた成果を一定の条件に基づく習作によって展開する。

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週月曜 18:00-19:00

建築計画学Ⅰ

Architectural Planning I

【科目コード】40050 【配当学年】第2学年 【開講期】後期 【曜時限】金曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】吉田

【講義概要】建築を計画、設計するのに必要な、機能、動線、ビルディングタイプの解釈や成立の過程と解釈、評価についての基礎的知識について講述する。また、構築環境における人間の心理や行動を説明する実証的理論の基礎について講述する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】建築の計画・設計の基本となる事項、および、構築環境における人間の心理や行動を理解するための諸理論について理解を深める。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築計画学の対象領域	1	建築計画学の系譜を概説した上で、建築における計画の概念やその変遷を解説し、建築計画学の対象とする領域を示す。
寸法計画	1	建築物の単位空間の考え方、また設計に当たって必要となる人体寸法、動作寸法、単位空間の寸法計画などについて理解を深める。
規模計画	1	地域施設の規模計画や人口変動の予測、施設利用人数の変動やあふれ率法などについて理解を深める。
評価	1	建築の計画・設計プロセスでおこなわれる評価や住環境評価について講述し、ウェイト決定法や max-min 原理などの評価法について理解を深める。
耐用計画	1	建築や空間の耐用計画について講述する。建築物の社会的寿命や転用（コンバージョン）などについて理解を深める。
ファシリティマネジメント	2	オフィスでのファシリティマネジメントを中心に、その変遷やPOE調査までを概観する。
ビルディングタイプ	2	生活行動の型、室型・建築型、空間の結合・分割の型、動線の考え方などについて講述する。また、学校や病院など近代以降の代表的なビルディングタイプの成立の過程についても講述し理解を深める。
機能・プログラム	2	建築設計における機能・プログラムの考え方およびその変遷を講述する。
環境心理学	1	環境における人間の心理を説明する実証的理論である環境心理学を中心に、その対象の広がりを講述し、アフォーダンスなどについて概観する。
近接学	1	動物行動学、文化人類学から発した近接学（プロクセミクス）の概念と建築計画学での用いられ方、応用のされ方について講述する。
プライバシー・セキュリティ	1	プライバシー意識についての定義の変遷と主に建築計画学での扱われ方について講述する。また、防犯に対する不安感についてもCPTEDの概念などを講述する。

【教科書】各回毎にオリジナルな資料を配布すると共にプロジェクトスライドを用いて理解を助ける。

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[成績評価] 期末試験により行う。[オフィスアワー] (質問等の受付) 金曜日 12:00-13:00[対応する学習・教育目標] B. 専門知識と基礎知識 B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力

住居計画学

Housing Design

【科目コード】40060 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】水曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】高田光雄

【講義概要】住居はあらゆる建築の原点である。本講義では、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの居住空間の構成原理を示し、併せて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした住居・住環境計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に講述する。

【評価方法】[成績評価]1) 演習(30点満点) 提出:講義において指示する2) 試験(70点満点) 後期試験期間中

【最終目標】[対応する学習・教育目標]B 専門知識と基礎知識 B2 建築の設計・計画的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
講義概要	1	講義概要 / 履修指導 / 演習指導
住居計画の変遷	2	住居計画学の領域 / 人間と住居 / 住居計画の変遷
公共性・社会性と住居計画	2	住居の公共性・社会性 / 公共性の構造 / 公・共・私の関係
地域性・場所性と住居計画	2	住居の地域性 / 空間と場所 / 場所性・没場所性
多様性・適合性と住居計画	2	標準化と多様化 / オープンビルディング / スケルトン・インフィル
地球環境問題から見た住居計画	2	環境共生住宅 / 長期耐用型集合住宅 / サステナブルデザイン
少子高齢社会から見た住居計画	2	家族変化と住居 / ノーマライゼーション / ユニバーサルデザイン

【教科書】パワーポイント、ビデオなどを用いた講義を行う

【参考書】日本における集合住宅計画の変遷(高田光雄編著・放送大学教育振興会)少子高齢時代の都市住宅学(広原・岩崎・高田編著・ミネルヴァ書房)京の町家考(京都新聞社編・刊)町家型集合住宅(巽和夫+町家型集合住宅研究会編・学芸出版社)職住共存の都心再生(青山吉隆編・学芸出版社)住宅を計画する(住環境の計画編集委員会・彰国社)NEXT21(『NEXT21』編集委員会・エクスナレッジ)

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー](質問等の受付)原則として水曜日 12:00 ~ 12:30, 17:00 ~ 18:00

建築設計論

Architectural Design Method

【科目コード】40160 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・5時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】高松・竹山

【講義概要】前半：建築設計における実践及び実践に関与する識者と共に、講義と対話を通じて建築の思想とその実現における思考を学ぶ。(担当教員：高松)

後半：建築の設計を人間の思考のプロセスとしてとらえ、そのメカニズムを明らかにする。また実践としての設計事例を詳述する。現代建築を捉える歴史的視点についても講述する。(担当教員：竹山)

【評価方法】出席状況とレポート評価によって行う

【最終目標】B. 専門知識・基礎知識、B2 建築の設計・計画的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
講義及び討議(高松)	6	建築設計における実践及び実践に関与する識者と共に、講義と対話を通じて建築の思想とその実践における思考を学ぶ。
I. 行為としての建築(竹山)	1	つくることのメカニズム。設計論の対象は建築行為である。
II. 他者と場所(竹山)	1	可能な世界の表現。設計主体は他者を通過した場所に現れる。
III. 言語と建築(竹山)	1	意識と身体の関係。建築もまた言語と同様に外在的な構造が身体化されて産み落とされる。
IV. 時間・プログラム(竹山)	1	空間的想像力の位相。社会化された身体を訪れる現象を分析する。
V. 主体と可能性(竹山)	1	個のアクチュアリティ。普遍的な構築への意志と個の欲望が交差する。
VI. 建築的瞬間の到来(竹山)	1	空間加工のイメージ。道を開く思考、あるいは、鳥の歌を聴け。

【教科書】『Design Essence from Scketchbook』京大学術出版会、『独身者の住まい』廣済堂出版、『スペースデザイン論』武蔵野美術大学出版局、

【参考書】『竹山聖』六耀社、『都市を呼吸する』リプロポート

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】

設計演習Ⅰ

Atelier Practice of Architectural Design I

【科目コード】40070 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・3～5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N7・製図室2 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】高松・竹山・梅林・朽木

【講義概要】法規、構造、施工、計画等の基本的な知識の学習と並行して、空間構成の基本的な方法を学ぶ。あわせて基本ディテール、製図法等のプレゼンテーション技法、模型作成技術等を習得する。3課題のうち2課題を2期に渡り、系列毎に履修する。

【評価方法】提出作品により行う

【最終目標】[対応する学習・教育目標] A. 総合能力、A1. コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力、A2. 建築の価値を多面的に理解する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
小さなチャペル若しくは祈りの空間	12	敷地以外の諸条件を自ら設定し、これに応えるかたちで設計を展開する。このプロセスを通じてプログラムと建築の関係、及びその具体的な表現手法を習得する。[担当教員：高松]
空間加工のイメージ	12	コンテキストを読み取り、イメージに形を与えるトレーニングを行う。[担当教員：竹山]
「小さくて大きな」ライブラリー	12	大量の蔵書があるから豊かなのではなく、ブラウジング(気軽な閲覧)でき、非線形に知識とのふれあいを可能にする「小さくて大きな」ライブラリーを構想する。敷地は吉田キャンパス内に自由に定めることができる。[担当教員：梅林]

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週金曜 18:00-19:00

設計演習 II

Atelier Practice of Architectural Design II

【科目コード】40080 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・4、5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N8・製図室2 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】第1課題：竹山・平田、朽木 第2課題：高松・門内・竹山、守山

【講義概要】法規、構造、施工、計画等の基本的な知識の学習と並行して、空間構成の基本的な方法を学ぶ。あわせて基本ディテール、製図法等のプレゼンテーション技法、模型作成技術等を習得する。

【評価方法】提出作品により行う

【最終目標】[対応する学習・教育目標] A. 総合能力、A1. コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力、A2. 建築の価値を多面的に理解する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
第1課題：住宅	6	住まうことの意味を考えるなら、それがただ目的を持った空間にとどまらず、むしろ目的を持たぬ無為の時間を過ごす場所であり、「居場所」であることに気づく。そうした拠点としての住宅を構想する。[担当教員：竹山・平田]
第2課題：小学校	6	特定の敷地において小学校を構想する。児童が集い、学び、遊ぶ空間の新たな在り方を提案し、かつこれを周辺環境や景観との関連を踏まえて総合的に設計する能力を培う。[担当教員：高松・門内・竹山]

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週月曜 18:00-19:00

建築環境工学 I

Environmental Engineering of Architecture I

【科目コード】40090 【配当学年】第2学年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】鉾井修一・<防災研>田中哮義

【講義概要】快適かつ安全な環境を構築するため、建築計画上考慮すべき基本的な環境要素のうち、放射・日射、熱、湿気、空気の建物内外における性状とそれらの解析法、予測計算法について講述する。また、それら環境要素の生理的・心理的影響を考慮した評価法についても講述する。これにより、環境工学的観点より建物を評価し、その結果を建築設計に反映させる能力を習得させることを目指す。

【評価方法】レポート、期末試験により行う。

【最終目標】B: 専門知識と基礎知識、B4: 建築の環境工学的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築と気候	2	建築環境工学の役割、気象条件の変動特性、地域的特性および建物回りの外部環境と室内環境との関係
熱環境	2	人体の熱発生と放散のメカニズム、体温調節機構、熱的快適性、体感温度指標と建物設計
建築伝熱	3	定常熱伝導と壁体の熱特性・熱伝達率との関係、供給熱量と室温、非定常熱伝導および室内湿度と結露
空気環境・換気	5	室内空気汚染の要因と必要な換気量、換気のメカニズム、計算法、計画法
放射熱伝達・日照・日射	3	放射熱伝達、太陽位置・日照時間の算定法、日射の性質とその調整法

【教科書】建築環境工学 II：鉾井修一、池田哲朗、新田勝通、朝倉書店

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は 鉾井修一、田中哮義まで、希望日時（第三希望まで）と学生番号、氏名を明記してメールすること。

建築環境工学 II

Environmental Engineering of Architecture II

【科目コード】40100 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】金曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】高橋・石田・伊勢

【講義概要】快適かつ安全な環境を構築するため、建築計画上考慮すべき基本的な物理環境要素のうち、照明、色彩、音響などの建物内外における物理性状、解析法、予測計算法を講述する。またそれらの環境要素に対する心理的・生理的影響および評価法についても講述する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】建築計画上考慮すべき基本的な物理環境要素のうち、照明、色彩、音響に関する基礎と応用を学ぶ。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B4. 建築の環境工学的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
光環境と視覚	2	人間の視覚系が光環境に対してどのように働き、どのような特性を示すのか説明し、光の計測の基礎である測光量の算出方法と定義について説明する。眼球と網膜の構造、錐体と桿体による光感覚受容、光環境に対する眼の順応、分光視感効率、放射量と測光量、光束、光度、照度、輝度など。
照度計算と建築照明	3	建築照明の基礎である照度の計算方法と建築照明への応用について説明する。点光源による直接照度、反射と透過、均等拡散面、面光源による直接照度、立体角投射率など。
表色系の基礎と活用	2	人が色を知覚する仕組みから始めて、色を体系的に記述するための表色系について説明し、照明工学や建築色彩における活用方法を紹介する。色覚の仕組み、色の三属性、マンセル表色系、CIE XYZ 表色系、色度座標、加法混色など。
音の性質とその生理・心理的効果	3	音源から発生した音は身の周りに存在する全ての物によって変化を受け、最終的に耳に到達し音として認識される。この過程における音の性質について、人間の聴覚系の働き及び聴覚の生理・心理的応答との関連で概説する。
振動と音の物理、音響材料	4	建物内外における快適な音環境を目的とした各種音響設計の基礎となる、振動と音の物理に関する基礎事項を説明する。関連して、波動伝搬理論、音の物理指標、及び、音響設計のための吸音材、遮音材の音響特性などについても概説する。

【教科書】「エース建築環境工学 I(日照・光・音)」松浦・高橋，朝倉書店

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー](質問などの受付) 金曜日 17:00-18:00

建築構造力学Ⅰ

Mechanics of Building Structures I

【科目コード】40110 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】林・大崎・荒木(慶)

【講義概要】建築構造物の形、構成要素、構造設計の基本事項について概説し、骨組構造解析のための力学モデル、基礎概念、理論構成および適用方法を解説する。応力とひずみの定義；構造材料の力学的特性と数式表現；棒材の断面力と変形；静定ばりの理論と応用について講述する。

【評価方法】出席状況および期末試験により行う。

【最終目標】建築構造力学の基礎を学習し、建築構造力学2, 3を履修するための知識を習得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の, B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築構造力学の役割と静力学の基礎	2	建築に用いられる骨組構造の分類を示し、形態や力学特性について概説する。建築構造力学の役割を構造設計との関わりにおいて説明する。力学の基礎概念である変位、ひずみ、力、力のモーメントを導入し、自由体に作用する力の釣合条件式を記述する。演習問題を課す。
材料の力学的性質と変形体解析の基本原理	3	鉄鋼やコンクリートなど、構造材料に力が作用したときの变形過程について概説し、弾性、塑性、粘性などの用語を説明する。応力とひずみの定義を示した後、弾性体についての応力とひずみの関係式を導く。骨組構造を解析するときの基礎法式的の成り立ち、初等解析で用いられる仮定や近似について講述する。
静定梁	4	棒材の断面力を定義する。静定梁を定義し、支点に作用する反力と、断面力を自由体の釣合式から求める方法を説明する。梁の微小要素に作用する断面力と外力の釣合から梁の基本釣合微分方程式を誘導し、これを用いた静定梁の解法を示す。断面力図の描き方を説明する。演習問題を課す。
部材断面に作用する応力	5	最も単純な梁理論の成り立ちについて講述する。平面保持の仮定に基づいて、軸力と曲げを受ける弾性梁の断面に生じる応力の求める方法、ねじりを受ける弾性梁に生じるせん断力を求める方法について解説する。傾斜した断面に作用する応力を求める公式を誘導し、モールの応力円を用いた解法を説明する。演習問題を課す。

【教科書】「建築構造力学 図説・演習Ⅰ」中村恒善 編著、野中泰二郎、須賀好富、南宏一、柴田道生 共著、丸善

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 随時

建築構造力学 II

Mechanics of Building Structures II

【科目コード】40120 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】金曜・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義/演習 【言語】

【担当教員】竹脇・上谷(宏)・荒木(慶)

【講義概要】棒材の軸変形および梁の曲げ変形の解析法について講述する。次に、建築平面骨組の初等的解析法のうち、静定トラス、静定ラーメン、不静定梁の理論および柱の座屈の基本的考え方について講述する。不静定梁の理論については、応力法と変位法について解説する。講義時間内に随時演習問題を課し解説を行う。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】梁の曲げ変形の解析法と不静定梁の解析法を修得し、静定トラス、静定ラーメン、および柱の座屈の基本的考え方を修得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
棒材の弾性変形と梁の曲げ変形	2-3	梁のたわみ曲線の微分方程式とその解法。モールの定理。演習。
不静定梁 1	3	断面力・反力を未知量とする解法(応力法)。演習。
不静定梁 2	3	変位を未知量とする解法(変位法)。演習。
静定骨組	2	静定トラスと静定ラーメンの断面力算定法。
柱の座屈	3	梁要素の軸方向力とたわみの積の効果を考慮に入れた釣合式。固有値問題。座屈たわみ角法。演習。

【教科書】「建築構造力学 図説・演習 I」中村恒善 編著、野中泰二郎、須賀好富、南宏一、柴田道生 共著、丸善

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 金曜日 10:30-12:00。

建築生産 I

Construction Engineering and Management I

【科目コード】40210 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・1時限 【講義室】工学部3号館北棟4階 N7

【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】 【担当教員】加藤・古阪・金多

【講義概要】企画，設計，施工，保全からなる建築生産活動を対象にして，生産活動を構成する主体とその役割，これらが構成する建築生産システムについて，基礎的事項を解説する。

【評価方法】期末筆記試験により行う。レポート提出実績，出席状況等も考慮する。

【最終目標】建築物が生産される過程に関する広汎な知識を修得すること。

学科で掲げる学習・教育目標の中の，B．専門知識と基礎知識 B2．建築の設計・計画的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築生産概論	1	建築生産の意味，建築生産 I ならびに II で講義する内容とその意図等について解説する。
建築市場	1	国内外の建築市場の規模，フロー/ストックにわたる経年的変化など建築活動の全般を計量的に解説する。
建築生産システム	2	建築生産システムを構成する要素を主体，諸規範・基準，業務・役割に分けて解説し，その組み合わせとして編成される建築プロジェクト組織の典型とバリエーションについて，契約方式，施工方式，生産者関与などの観点から講義し，建築プロジェクトの組織化の方策について解説する。
建築生産における企画	1	建築生産プロセスの概要と分節を示し，建築生産の観点から，建築企画の必要性と可能性，担当者，実現性・採算性の検討などについて解説する。また，欧米におけるブリーフィング，プログラミングに関しても解説する。
建築生産における設計	2	設計方法論と設計区分について認識させ，基本設計図書・実施設計図書に盛り込むべき内容を解説する。また，建築生産の構成主体が共通に理解すべき設計の基本知識として，基本計画，規模計画，寸法計画，各部設計について解説する。
設計とエンジニアリング	1	各種設計支援技術とコスト管理について解説する。具体的には，デザインレビュー，コンカレントエンジニアリング，協調設計，生産設計，積算，バリューエンジニアリングの意義と取り組みを紹介する。
設計方法とプロジェクト事例	1	総合的なマネジメントや技術的困難をともなったプロジェクト事例を紹介し，計画内容の評価を行う。情報技術を利用した設計・マネジメント業務の進め方や総合図についても解説する。
建築生産に関わる法と制度	2	建築生産と関連の深い建築士法，建設業法，設計・監理委託契約，工事請負契約について解説する。また，ISO9000s（品質管理），ISO14000（環境管理），製造物責任（PL）法，住宅の品質確保等に関する法律（品確法）など国際化に対応した法ならびに制度に関して，成立の背景，その考え方と特徴，建築生産に与える影響，従来の法制度との差異などについて解説する。
生産システム基礎	3	生産システムを構成する物流管理，配送計画，サプライチェーンマネジメントの基礎概念について論述する。

【教科書】古阪秀三編著「建築生産」理工図書

【参考書】新建築学大系44「建築生産システム」彰国社

日本コンストラクション・マネジメント協会「CMガイドブック」相模書房

巽和夫・柏原士郎・古阪秀三「進化する建築保全」学芸出版社

建築図解事典編集委員会編「図解事典建築のしくみ」彰国社

日本建築学会編「マネジメント時代の建築企画」技報堂出版

日本建築学会編「まちづくり教科書第5巻『発注方式の多様化とまちづくり』」丸善

【予備知識】高等学校の「公民」の科目内容を理解していること。

【授業 URL】

【その他】オフィスアワー（質問等の受付）：火曜日 13:00-14:30

建築材料

Materials for Buildings

【科目コード】40130 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】金子・林

【講義概要】建築物を構成している諸材料の性状について講述する。本講ではコンクリート、鋼、木質材料、仕上げ材料という建築材料全般に対して、それらの製造法、基本的物性、力学的特性、建築物における利用例などを講述する。

【評価方法】出席状況、期末試験により行う。

【最終目標】建築物を構成しているコンクリート、鋼、木質材料、仕上げ材料という建築材料に対して、製造法、材料特性、建築物における利用例などを修得する。

学科で掲げる学習・教育目標の中の、B．専門知識と基礎知識、B3．建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
コンクリート	4	セメントの製造法・性質、骨材・混和材料の性質、コンクリートの製造法、調合設計、フレッシュコンクリートの性質・試験法、固まったコンクリートの力学的特性・物理的特性について講述する。
鋼材	3	鋼の原料、製鐵技術とその歴史、鋼材の分類と化学組成、鋼材の物性と応力-ひずみ関係、物性の試験方法について講述する。
木材・木構造	3	木造建物の構造用材料として木材の強度などの材料特性や木材の劣化、耐久性、耐火性について、また木造建物の構造形式・構法や構造設計について解説し、木材に対する正しい認識のもとに木造建物の設計・施工・維持管理に反映することを主眼としている。
仕上げ材料	2	構造材料と仕上げ材料の違い、活用される材料特性、建築物における利用例などについて講述する。

【教科書】

【参考書】「建築材料学」三橋・大濱・小野 編集、共立出版

「建築材料用教材」日本建築学会

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 13:00-14:00

建築・都市行政

Building and Urban Administration

【科目コード】40430 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】木曜・4時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】寺田敏紀・高谷基彦・園孝裕

【講義概要】都市経営を行う上で、建築と都市計画に関する諸行政がどのように関わり、どのような役割を發揮しているのかについて、その位置づけを含めて関係法令と京都市の具体的事例によって理解を深めさせる。

【評価方法】小論文により行う。

【最終目標】対応する学習・教育目標：C 実践能力 C2 建築行為の社会的役割を理解する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
概論	1	(寺田) 建築・都市計画行政をとりまく社会経済の変化とそれに起因する諸課題について概説する。
建築行政	2	(園) 建築行政が果たしてきた役割について歴史的に概観し、建築行政が抱えている今日的課題について概説する。
建築法規	2	(園) 建築基準法及び関係法令について、その基本的な成り立ちを理解した上で、具体的な運用について概説する。
都市計画行政	2	(高谷) 都市計画行政が果たしてきた役割について歴史的に概観し、都市計画行政が抱えている今日的課題について概説する。
景観行政	2	(高谷) 景観行政が果たしてきた役割について歴史的に概観し、景観行政が抱えている今日的課題について概説する。
営繕行政	1	(寺田) 公共建築物の計画から設計、建設、管理に至るまでの行政の役割と、今日的課題について概説する。
住宅行政	1	(寺田) 住宅行政が果たしてきた役割について概観し、住宅行政が抱えている今日的課題について概説する。
事例論考	2	(寺田) 建築・都市行政に係る具体的事例について行政の関わり方について論考する。

【教科書】なし

【参考書】講義中に適宜紹介する。

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】オフィスアワー：講義中にお知らせする。

建築情報処理演習

Computational Practice on Architectural Design and Engineering

【科目コード】40590 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】金曜・4, 5時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8ほか 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義および演習

【言語】 【担当教員】上谷(芳)・金多・辻・瀧澤・堀之内・山川

【講義概要】建築に関連する工学的な諸問題を、パソコンを使って分析するための基礎的知識を身に付けるため、パソコンにおけるプログラムを使ったデータ処理方法の講義および演習を行い、処理方法の立案、プログラムの作成、結果の分析という一連の処理方法の演習を行う。

【評価方法】演習への参加状況および確認テストによる。

【最終目標】建築工学における数理的問題を、アルゴリズムを用いてパソコン上で解くための基礎的知識を身に付ける。プログラム言語 FORTRAN90 について、IF 構文、DO 構文、データの入出力と FORMAT 文、サブルーチン副プログラムを習得する。

学科で掲げる学習・教育目標の中の、B1 科学的問題解決能力、D1 問題発見・解決能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
履修内容の概要説明	1	教科日程表にもとづいて履修内容全般を説明し、実習を受ける際の心得を注意する。履修者は、学術情報メディアセンターの利用登録を確認する。
プログラミングの初歩(第1ターム)	3	講義およびいくつかの簡単な例題と演習を通じてプログラミング文法の基本を理解する。
少し複雑なプログラミング(第2ターム)	3	分岐処理や配列変数などを利用して、少し複雑なプログラムを作成する方法を身に付ける。
建築におけるコンピュータ利用	1	建築の企画、設計、施工、維持管理の各段階において、コンピュータがどのように利用されているかを講述する。
応用プログラミング(第3ターム)	3	演習の締めくくりとして、建築設計の場面で直面する実用的な問題をパソコンを利用して解決する方法を演習する。
確認テスト	1	演習で身につけたことの確認のための最終演習(確認テスト)を行う。

【教科書】富田博之「FORTRAN90 プログラミング」(培風館)

【参考書】なし。演習中に資料を適宜配布する。

【予備知識】受講者は、基礎情報処理演習(1回生前期配当)および基礎情報処理(1回生後期配当)を履修していることが望ましい。また、受講に先立って、学術総合情報メディアセンターの利用登録を済ませておくこと。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 金曜日 16:15-16:30, 18:00-18:45

工業数学C

Engineering Mathematics C

【科目コード】21020 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】木曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】松下泰雄

【講義概要】複素関数論とフーリエ解析を講義する。複素関数論とは、複素変数の複素数値関数の微分積分学で、工業数学全般の基礎である。フーリエ解析は、周期関数に対するフーリエ級数と非周期関数に対するフーリエ変換からなる。

【評価方法】期末試験によりおこなう。

【最終目標】C 実践能力 C1 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
複素関数の微分	2～3	複素変数の複素数値関数の微分の意味を説きコーシー・リーマンの関係式を導く。正則関数を説明し、初等関数の複素化について述べる。テーラー展開からローラン展開へと関数の級数表示を説明し、それによって留数や特異点が定義される。
複素関数の積分	3～4	コーシーの積分定理と積分公式を説明し、留数定理へと導く。以上の概念や定理などは、応用例を交えて解説する。
フーリエ級数の概要	1	周期関数のフーリエ級数は、さまざまな周期の重ね合わせとみなすことができ、正弦関数と余弦関数の無限級数として定義される。
収束定理について	1～2	無限級数としてのフーリエ級数が収束するための条件について検討する(収束定理)。関数が不連続な点におけるフーリエ級数の振る舞い(ギブスの現象)について述べる。
フーリエ変換について	2～3	関数が周期性を持たないときは、連続周波数に分解される。このとき、フーリエ変換およびフーリエ積分が定義される。ディラックのデルタ関数を主として、超関数の一端にふれる。
応用について	2～3	2階偏微分方程式(波動方程式、熱方程式、ラプラス方程式)を紹介し、1つを選んでフーリエ級数あるいはフーリエ変換による解析の方法を示す。線形システム、制御系の周波数応答などへの応用を解説する。

【教科書】[教科書]フーリエ解析=基礎と応用(培風館)[参考資料](速修)複素関数論(ネット上で公開配布の予定)

【参考書】講義中に示す。

【予備知識】微分積分学を予備知識として仮定している。

【授業 URL】

【その他】演習を課すことがある。 [質問等の受付] 講義の直後

都市設計学

Urban Design

【科目コード】40170 【配当学年】3 学年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・3 時限

【講義室】工学部 3 号館北棟 4 階 N 8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】小林正美・小林広英

【講義概要】「人間は環境の産物であり、劣悪な環境からは劣悪な性格が、良好な環境からは良好な性格が形成される。人間の性格の正しい形成のためには、人間を良好な環境のもとにおかねばならない（ロバート・オーエン）」。都市での人間居住を、人間と自然、歴史や風土との相互作用の営みとして捉える。今ある都市を、地球環境の変化に対処するために、歴史や文化の遺産を引継ぐと共に、自然生態系に低負荷で、安全でかつ美しく、コミュニティを中心にした豊かな都市として再設計するために、必要な制度・技術・デザインについて講義する。人間居住の実践学である都市設計を座学で学ぶために、世界の都市の有り様や都市設計の実際を、多数のスライドを用いて紹介するビジュアルな講義である。

【評価方法】成績評価：1) 課題レポート 50%、筆記試験 50%

【最終目標】計画理論や技術、設計手法などの技術的な側面に加え、「都市」や「市民社会」・「コミュニティ」といった用語が持つ理念や思想を理解し、学科で掲げる学習・教育目標：C. 実践能力（C2. 建築行為の社会的役割を理解する能力）の涵養を目指す。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
地球環境都市への道程	4	以下の課題について、1 課題あたり 1~2 週の授業を行う予定である 1) 地球環境を考える建築：UNEP 国際環境技術センター、2) 市民参加の都市設計：八尾市竜華都市拠点整備事業、3) 農的土地地区画整理事業：新潟市新通り菜園コモン住宅、4) 持続する世界の木製都市
都市の精神、都市の理念	3	5) 増田四郎の「都市」を読む、6) 宇沢弘文の「社会的共通資本」を読む、7) ジェイン・ジェイコブスの「アメリカ大都市の死と生」を読む
近代都市設計の系譜	4	8) ル・コルビジエの輝ける都市、9) E. ハワードの明日の田園都市、10) オースマンとナポレオン 3 世のパリ大改造、11) アメリカの近隣住区理論
防災都市の設計	2	12) 地震都市サンフランシスコのフェイル・セーフ・デザイン、13) 日本の地域防災計画
都市の色彩計画	2	14) ゲーテの色彩理論、15) 風土色に学ぶ都市の色彩設計

【教科書】授業中にプリントを配布します。

【参考書】増田四郎「都市」ちくま学芸文庫、和辻哲郎「風土」岩波文庫、宇沢弘文「社会的共通資本」岩波新書 696、木原啓吉「歴史的景観」岩波新書 216

【予備知識】全学共通科目でもあり、文系学生の受講に配慮し、計画論や設計手法などの技術的な側面に加え、「市民」がつくる「都市」の理念や思想の知識も重視する。

【授業 URL】

【その他】オフィスアワー：前期月曜授終了夕刻迄、

建築設備システム

Building Systems Design

【科目コード】40180 【配当学年】第3学年 【開講期】前期 【曜時限】木・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義および演習 【言語】

【担当教員】鉾井・原田・上谷(芳)

【講義概要】空気調和設備・給排水衛生設備等の建築設備について、システムの作動原理や基礎を講述し、省エネルギー、地球環境保護等を考慮した設計方法を講述する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】建築物における設備の役割と動作原理を理解し、建築計画との調和した設備計画を考えるための基礎を養う。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B4. 建築の環境工学的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築と設備システムの融合	1	建築にいかにして設備システムを融合させるべきかについて解説する。
空調プロセス	3	熱負荷計算法、温度・湿度・エンタルピーなど空気状態の解析方法、種々の空調プロセスの作動原理
空調設備機器	4	冷凍機・ボイラー・空調機などの基本的な機器の原理、空気・水などの流体搬送の原理、空調システム
給排水システム	2	水質基準・汚染防止、給排水システムの設計方法
照明設備	3	照明方式、照明器具、直接・間接照度計算、光束法、点滅回路、各種センサーや自然光利用による照明制御・省エネルギー
電気設備	2	電力設備、直流と交流、電気方式、受変電設備、配線、電力・電力量・電気エネルギー、一次エネルギー、CO ₂ 排出量とポスト京都議定書、通信情報設備、昇降機

【教科書】

【参考書】建築設備学教科書、建築設備学教科書研究会編著、彰国社、1995

【予備知識】建築環境工学 I、II の予備知識が必須である。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 講義時間の前後 (その他の時間帯で質問を希望する学生は、担当教員のアポイントを取ること)

鉄筋コンクリート構造Ⅰ

Reinforced Concrete Structure I

【科目コード】40190 【配当学年】第3学年 【開講期】前期 【曜時限】木曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】西山峰広・河野進

【講義概要】鉄筋コンクリート構造の力学的特性と基本的力学理論について講述する。構成材料についての基本性状を説明したのち、材料の弾性応力状態に基づく曲げと軸力に対する弾性設計理論、弾塑性応力状態に基づく終局強度理論、せん断理論、塑性変形能力評価法について講述し、各種荷重に対する鉄筋コンクリート部材の設計法を修得させる。適宜演習を課す。

【評価方法】出席状況、演習課題提出状況、および期末試験成績を総合して評価する

【最終目標】B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
鉄筋コンクリート構造の原理および構成材料	2	鉄筋コンクリート構造の成立原理について概説し、本構造を構成する材料、すなわちコンクリートおよび鉄筋の力学的性状およびそれらの相互作用である付着特性について講述する。
弾性設計理論	3	常時使用状態での柱及び梁の曲げと軸力に対する設計に必要な弾性設計理論を、材料の弾性係数、平面保持の仮定および力の釣合条件を用いて解説する。
終局強度理論	3	地震時等の非常時荷重の下での柱及び梁の曲げと軸力に対する設計に必要な終局強度理論を、材料の非線型応力-ひずみ特性、平面保持の仮定および力の釣合条件を用いて解説する。
せん断理論	3	柱及び梁の脆性的なせん断破壊を防止するための方策を、過去に提案されているせん断強度実験式およびせん断機構モデルに基づく理論式を用いて解説する。
塑性変形能力評価法	2	耐震設計に不可欠な部材の塑性変形の算定法を説明する。また、せん断力が部材塑性変形能力に及ぼす影響をせん断余裕度の概念を用いて解説する。

【教科書】エース「鉄筋コンクリート構造」、渡邊史夫、窪田敏行 共著 朝倉書店（エース建築工学シリーズ）

【参考書】R. Park and T. Paulay「Reinforced Concrete Structures」John Wiley、日本建築学会編「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、「鉄筋コンクリート構造（第3版）-理論と設計」谷川、小池、中塚、西山、畑中 共著 森北出版

【予備知識】2回生配当科目である「建築材料」を修得していることが望ましい。

【授業 URL】<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lecturenotes/>

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 木曜日 13:00-14:00

鉄骨構造Ⅰ

Steel Structure I

【科目コード】40200 【配当学年】第3学年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義および演習 【言語】

【担当教員】吹田啓一郎

【講義概要】鉄骨構造に用いられる鋼材の製法や力学特性、骨組構造の構成、設計法の概要を講述し、鉄骨構造の機能性・安全性を支配する主要因の1つである崩壊荷重を決定する塑性理論を詳述するとともに、構造設計への適用法を解説する。また、適宜演習を課すことによって理論の習得をはかる。

【評価方法】期末試験（筆記）を実施する。

期末試験の採点に、授業中に課す課題などの達成度を加味して成績評価とする。

【最終目標】鋼材の機械的性質を理解し、鉄骨構造骨組の力学挙動を理解するために必要な理論とこれに基づく設計法を習得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
鋼の製造と鋼材の性質	2	鉄とその原料、製鉄技術の歴史、鋼材の分類と化学組成、鋼材の機械的性質と応力 - 歪関係
鋼構造骨組の軸組と接合部	2	典型的な軸組と大規模構造物の軸組例、部材の種類と用途、接合方法の概要
部材・接合部の耐力と骨組の挙動	1	部材・接合部の力学特性と骨組の挙動
設計荷重	1	設計荷重と設計法の概要
鋼材の降伏条件と全塑性モーメント	2	鋼材の降伏条件、部材断面の全塑性モーメント、全塑性モーメントに及ぼす軸力、せん断力の影響
骨組の塑性崩壊	2	曲げ材の塑性崩壊、塑性崩壊の定義と崩壊機構、仮想仕事の原理、単純な骨組の塑性崩壊
塑性崩壊の定理	1	塑性崩壊の基本定理、降伏曲面とその特性、塑性ヒンジの概念
塑性崩壊荷重の計算方法	3	機構法（仮想仕事法）の幾何学的意味、フロアモーメント分配法、増分解析

【教科書】井上一郎・吹田啓一郎、「建築鋼構造 - その理論と設計 - 」, 鹿島出版会

【参考書】若林實,「鉄骨の設計」, 共立出版

【予備知識】構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 金曜日 12:00 ~ 13:00

建築構造力学 III

Mechanics of Building Structures III

【科目コード】40220 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・2時限および水曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】4 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】上谷(宏)・竹脇・辻・荒木(慶)

【講義概要】骨組構造について仮想仕事の原理とエネルギー原理を定式化し、応力法、剛性法(変位法)の基礎概念とマトリックス構造解析法を概説する。伸びなし変形理論の諸解法に論及した後、建築骨組の静力学特性と実用計算法の基礎および塑性解析の基礎を概説する。随時演習問題を課する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】応力法、変位法の基礎概念とマトリックス構造解析法を修得し、仮想仕事の原理およびエネルギー原理を修得する。さらに、たわみ角法および塑性解析の基礎を修得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
骨組理論概説・たわみ角法	4	骨組の構成要素、種類、解析モデル、たわみ角法公式、節点方程式、層方程式について講述する。演習。
モーメント分配法	1	節点移動の無いラーメンのモーメント分配法について講述する。
建築立体骨組	2	剛床で連結された平面骨組、水平力分担公式、建築骨組の構造設計について講述する。
変位法と応力法	8-9	部材剛性行列、単純モデルおよびトラスの系剛性方程式、剛接骨組の系剛性方程式、中間荷重の取扱い、不安定骨組、応力法の考え方、拘束の除去と適合条件について講述する。演習。
仮想仕事の原理	4	仮想変位の原理、単位仮想変位法と剛性法、仮想力の原理、単位仮想荷重法について講述する。
エネルギー原理	3	全ポテンシャルエネルギー停留および最小の原理、コンプリメンタリーエネルギー停留および最小の原理について講述する。演習。
極限解析と弾塑性解析	3	完全弾塑性梁の荷重 - 変位曲線、塑性ヒンジ、塑性崩壊、仮想仕事(速度)式、極限解析の基礎定理、ラーメンの極限解析、弾塑性解析法について講述する。演習。

【教科書】「建築構造力学 図説・演習 II」; 中村恒善 編著、石田修三、須賀好富、松永裕之、永井興史郎 共著、丸善

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 講義時間の前後

行動・建築デザイン論

Behavior and Architectural Design Theory

【科目コード】40530 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・4時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】門内輝行

【講義概要】行動と環境の関わりを追求し、人間にとって真に望ましい建築空間を設計するための基礎的な知識を講述する。まず、行動と環境に関わる諸概念について概説し、行動の視点から建築空間のあり方を理解する基盤を与える。次いで、なわばり行動、行動セッティング、経路探索行動、群れ行動等の人間行動をとりあげ、行動と環境の関係を科学的に捉える方法を解説するとともに、行動・経路をデザインの対象とすることにより、新しい建築空間デザインへの手がかりを与える。さらに、認知科学や記号論（アフォーダンスやプラグマティズムの理論）に基づく行動理論を講述し、行動・建築デザインの可能性を展望する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】人間の行動・認知からみた建築・都市空間の理解とそれに基づくデザインの基本的考え方を修得する。

B. 専門知識と基礎知識、B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
行動と環境に関わる諸概念	3	人間は、形、色、動き、音、香り等の多様な情報をもとに環境を知覚し、環境内を行動し、環境を意味づけられた世界として認知し、場所や風景を記憶する。こうした知覚・認知・行動・記憶の仕組みについて解説する。さらに、アイデンティティ、オリエンテーションの概念、回行道、回遊性、眺望と隠れ場所、日常行動と非日常行動等の人間行動の基本特性に言及する。
空間のなわばりと行動セッティング	3	プロクセミックス、パーソナル・スペース、混み合い、近隣空間、まもりやすい空間といった人間のなわばり行動の特性を明らかにする。さらに、行動と環境の結合を行動セッティングとみなし、人間行動を誘発する場や環境のあり方を探求する。
空間的定位と経路探索行動	3	環境のイメージや認知マップの構造分析を通して、ナビゲーションの方法を考察する。建築・都市空間で実験を行い、経路探索行動の仕組みとそのシミュレーションについて解説する。
集団行動と群れ行動の創発	1	集団行動とそのシミュレーションの解説を行う。ミクロな主体の相互作用からマクロな群れ行動が創発される仕組みも扱う。
行動・経路のデザイン	2	シークエンス景観、神社の参道空間、茶室露地、日本の回遊式庭園など、巧妙にデザインされた行動・経路を分析する。また、さまざまなデザイン領域で開発された行動・経路のノートーションについて解説する。さらに、時間地理学による行動の記述、環境移行が人間行動に及ぼす影響についても紹介する。
行動・建築デザインの展望	1	哲学、現象学、ゲシュタルト理論、心理学、行動科学、認知科学、記号論等の視点から、行動と知覚・認知の関係を概説する。既存空間の保存再生からサイバー空間のデザインに至る広範な文脈における行動・建築デザインの可能性を考察する。

【教科書】授業は配付プリント、及びプロジェクトによるスライドを用いて行う。

【参考書】日本建築学会（編）『人間 - 環境系のデザイン』彰国社，1997年。日本建築学会編『建築・都市計画のための空間計画学』井上書院，共著，2002.5。その他、授業中にその都度紹介し、文献リストも配布する。

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】E-mail でアポイントをとること（ monnai@archi.kyoto-u.ac.jp ）、教授室（桂 / 建築棟 2階 204号室、電話 075-383-2927）

日本建築史

History of Japanese Architecture

【科目コード】40580 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】月曜一時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】山岸常人

【講義概要】寺社建築を中心とする日本建築の歴史を、社会的・文化的背景と関連づけながら解説し、日本建築の空間・技術・意匠の特質を理解することを目的とする。以下の項目に従って講義するが、項目により軽重を付けることがある。また休日一日を使って古建築の実測・復原調査の実習を行う予定である。

【評価方法】レポート、出席状況も加味することがある

【最終目標】B. 専門知識と基礎知識 B2 建築の設計・計画的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
日本建築の歴史	15	1. 序説 建築史学の目的・建築史研究法
		2. 古代建築の意匠と構造
		3. 飛鳥・奈良時代の寺院建築と伽藍配置
		4. 天台真言教団と寺院
		5. 摂関院政期の仏教と寺院
		6. 中世仏堂の空間と機能
		7. 古代の神社建築
		8. 和様の技術的発展（野小屋・三手先・枝割）
		9. 大仏様
		10. 禅宗様
		11. 新和様と折衷様
		12. 中世の神社建築
		13. 近世の寺社建築
		14. 古代中世の造営組織と大工道具
		15. 文化財の保存と歴史的環境の保全

【教科書】『日本建築史図集』（彰国社）

【参考書】山岸常人『塔と仏堂の旅 寺院建築から歴史を読む』（朝日新聞社）

【予備知識】日本史の基礎知識を持っていることが、講義の理解には不可欠である。

【授業 URL】

【その他】[質問等の受付] 月曜 10 時 30 分 ~ 12 時 00 分（建築学科本館二階少人数ゼミ室）

建築生産 II

Construction Engineering and Management II

【科目コード】40280 【配当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】火曜・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】古阪・金多・劔吉

【講義概要】建築生産プロセスを構成する計画・管理技術，マネジメント技術の体系と手法について解説する。また，建築作業所における施工管理や施工技術とそのシステム化，情報化について，最新の動向を交えながら解説する。

【評価方法】期末筆記試験により行う。レポート提出実績，出席状況等も考慮する。

【最終目標】工事監理や施工管理に関わる基礎的知識を修得すること。

学科で掲げる学習・教育目標の中の，C. 実践能力 - C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築生産計画・管理の概論	1	完成設計図書に基づいて建築物ができるまでの一連の活動をビジュアルに把握する。
計画・管理技術基礎編	3	まず，総括的な施工計画の考え方，内容について講義し，次に工程，品質，コスト，安全，環境に関して，設計から施工に至る一貫した流れの中で，それらがどのように確定していくのかを定義，機能，手法，実態を中心に講述する。
マネジメント技術基礎編	2	プロジェクトを推進する上で必要となる組織デザイン，情報伝達システム，調達システム，VEなど，マネジメント上の諸問題について講義する。また，諸外国のマネジメントの原理，実態についても講述する。
各種工事と施工管理	3	仮設工事，地下工事，躯体工事，仕上工事，設備工事などの各種工事の計画・管理方法について解説する。
建築生産と情報化	2	建築作業所での文書管理や工事管理に取り入れられている新しい情報化の動向を紹介し，情報化による利点と今後の課題について解説する。
まとめ	2	全講義を通して習得すべき事項の補足説明ならびに質疑応答を行う。

【教科書】古阪秀三編著「建築生産」理工図書

【参考書】日本コンストラクション・マネジメント協会「CMガイドブック」相模書房

古川 修「建設業の世界」大成出版社

建築工程図書編集委員会「絵で見る建築工程図シリーズ1～9」建築資料研究社

日本建築学会編「マネジメント時代の建築企画」技報堂出版

日本建築学会編「まちづくり教科書第5巻『発注方式の多様化とまちづくり』」丸善

【予備知識】建築生産Iの講義内容を修得していること。

【授業 URL】

【その他】オフィスアワー（質問等の受付）：火曜日 13:00-14:30

建築論

Theory of Architecture

【科目コード】40290 【配当学年】第3学年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】田路

【講義概要】建築の意味について問う建築論の主題の広がりについて解説する。とくにわが国における建築論の創設と発展に寄与した森田慶一、増田友也の思索を基礎に、主題となる鍵語ごとに西洋古典から現代に至るまでのさまざまな建築論の展開を吟味する。また、思想、哲学、芸術論など人文諸科学との関係も考察する。あわせて特定の建築家をとりあげ、その建築論的思索と作品制作における精神の働きについても分析する。

【評価方法】期末レポート試験による。

【最終目標】建築論の広がりとその概要を学び、建築的諸事象を根本的に問う姿勢を修得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築論の主題と方法	1	建築諸学は建築物を中心に制作と受容（使用）の二つの位相と、実証的・理論的・理念的の三つの水準に広がると考えられる。そうした広がりの中での建築論の位置について考察し、建築論の課題を検討する。
建築論の基礎概念 - 1	5	1) 建築: 「建築」の原義が原理からの構築であることを確認し、西洋建築論における「原理」「構築」の意義を解説する。2) 構成: 建築形態を基礎づける幾何学の思想的な意味とその歴史的な展開を論じる。3) 空間: 現象学によって開拓された空間論を概観し、人間の知覚と空間現象の様態を解説する。4) 場所: 人間によって構造化され解釈される場所について、ハイデガーなどの実存哲学にもとづき解説する。5) 光: 光の現象と空間性についてゲシュタルト心理学の知見を紹介し、その象徴性について考察する。
思索と表現 - 1	1	ル・コルビュジエの作品を紹介しながら、理論的思考と独創的表現を生みだした建築家の精神に迫る。
建築論の基礎概念 - 2	6	1) 制作: 天才と模倣の対立として論じられてきた西洋の制作論を概観し、創造性の実相を吟味する。2) 近代: 現在のわれわれが属する「近代」と呼ばれるパラダイムを歴史的視点から把握する。3) 風景: 風景が生成し退落する諸相を解説し、風景創造の可能性を考察する。4) 自然: 建築の根拠として自然がいかに模倣され解釈されてきたかを解説する。5) 超越: 人工としての建築を通じた絶対的な外部への超越の様相を実例を通して考察し、超越と生の充実について論究する。
思索と表現 - 2	1	ミース・ファン・デル・ローエの作品を紹介しながら、理論的思考と独創的表現を生みだした建築家の精神に迫る。

【教科書】森田慶一『建築論』東海大学出版会

【参考書】適宜指示する。

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 講義時間の前後

都市・地域論

Theory of Living Space in the Region

【科目コード】40300 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・2時限 【講義室】工学部3号館北棟4階 N8

【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】 【担当教員】神吉

【講義概要】都市・地域のあり方都市・地域空間の計画には、立体的・時間的スケールを考慮した多様な理論と手法がある。また、都市・地域は物的計画のみならず、社会システムとして実働するものであり、その運動によって形成・成長する。本講では、国内外の「まちづくり・地域づくり」の実例を通じ、都市・地域計画の枠組みと手法について講義する。建築は都市・地域との結びつきの中で存在しているものであるから、こうした都市・地域計画の視点から、建築設計・計画のあり方を問い直す。

【評価方法】レポート課題（小レポート3回＋レポート1回）と期末試験によって行う。

【最終目標】B. 専門知識と基礎知識、B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力、C. 実践能力、C2. 建築行為の社会的役割を理解する能力、E. 国際的視野、E2. ローバルかつローカルな価値観を理解する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築行為・開発行為の社会的コントロール	1	建築基準法・都市計画法等による、建築物の形態規制が、具体的にどのように運用されて、建築物の集団としての地区空間・景観が形成されているか、制度と現象の関係性を解説する。
地区計画などミクロの都市計画	1	地区の実情・将来構想にあわせて、あるいは、住民間の自主的な建築ルールの実質化が可能となる方法について解説する。
コミュニティと居住地計画	1	住宅群を中心とした居住環境に着目し、居住者の参画、コミュニティ活動といった社会的側面と連動しつつ計画するしくみについて解説する。
景観基本計画とアーバンデザイン	1	景観保全のための計画方法について解説する。各制度解説のほか、歴史的建築物の調査・景観分析、歴史的建築物の再生・利活用による景観整備、歴史的建築物と現代建築が混在する地区の修景方法について紹介する。
土地利用計画	1	建築物に関する集団規定について事例を紹介する。ドイツの土地利用計画、日本の用途地域制、ならびに農振法等の土地利用規制と建築コントロールの関係性について解説する。
地図資料を用いた敷地条件の読み方＋公園緑地の計画	1	新旧地図・航空写真・絵図資料等によって、都市・地域空間の形成プロセスと現空間の特徴を判読し、建築物敷地の位置の意味を捉える方法を解説する。 非建ぺい地の計画について詳述する。ドイツにおけるエコロジカル建築・都市計画の解説、敷地内空地の連たんによる環境形成、スケール別の緑地配置によるネットワーク形成と生活環境上の意味について理解する。
市街地の安全と防災都市づくり	1	木造建築物が多い歴史的市街地の防災対策について、重伝建地区の事例を解説する。さらに、公園緑地計画と市街地の安全対策について解説する。
都市交通の計画	1	生活行動を支える交通空間の計画について解説する。人間の移動状況を調査する諸手法の解説、ヨーロッパの都市の事例をふまえた、都心商業地域の歩行者空間の設計、歩行者と諸交通の制御の考え方について解説する。
市街地の開発・再開発と整備計画	1	土地区画整理事業、市街地再開発事業などの主たる事業手法について解説する。さらに、人口停滞・減少時代の事業手法上の課題、建築密度低下についてのコントロールの必要など、近年の整備課題について論じる。
地域計画と都市計画マスタープラン＋都市づくりの思想と空間形態	1	都市・地域の広域計画、自治体の建築・開発制御の上位計画について理解し、地域構造を適切にイメージ化し計画化する重要性について論じる。 近代都市計画の始まりから現在までの、都市計画史について解説する。イギリスにおける建築規制のはじまり、田園都市論、近隣住区論などの諸論の影響、諸建築家によって提唱された都市空間論について解説する。
現地観察調査	3	上記の講義テーマに関する現地見学を行う

【教科書】「地域共生の都市計画 第二版」三村浩史著 学芸出版社（2005年）

【参考書】講義中に、参考資料を配布する。講義テーマに応じて、参考となる著書や雑誌を紹介する。また、京都およびその近郊での現地見学を行う。

【予備知識】第2学年配当の「建築・都市行政」を受講していることを推奨する。第1回目の講義時に、レポート課題や現地見学等のスケジュールを調整する。

【授業URL】

【その他】[オフィスアワー] 月曜日 12:00 - 13:00 (建築本館 1階)

都市環境工学

Urban Environment Engineering

【科目コード】40520 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】木・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】鉾井・原田・上谷(芳)

【講義概要】都市には建築が集約的に存在し、そこでの人間活動の大半は建築内でなされる。都市による地球環境負荷の実態、地球温暖化抑制に深く関連する省エネルギー手法、環境と共生する都市や建築に関して具体例を示しながら講述する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】建築物、街区、都市、地域、地球の階層構造の中で、建築物等が都市環境形成に及ぼす影響を理解し、都市と建築の設計のためになる知識を習得させる。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C. 実践能力、C2. 建築行為の社会的役割を理解する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
地球環境と持続的発展	2	都市・建築と地球環境問題、持続可能な発展、環境負荷の評価方法
都市の成長と環境負荷	3～4	都市の成長過程、環境汚染やエネルギー使用の増加、環境負荷
環境負荷の少ない都市・建築	3	循環型社会の構築、自然との共生、環境共生都市・建築、都市の気候
緑	1～2	都市緑地の効用、アメニティ、リモートセンシングと植生、建築の緑化と効果、緑化資材、緑化事例
日照	1～2	太陽位置、日射量、日射遮蔽、等時間日影図、CADや魚眼写真による日照計画
採光	1～2	中世～近代～現代建築における採光、昼光率、天気・時刻・季節による昼光の変動、自然光利用による省エネルギー
ポスト京都議定書	1	京都議定書、排出権取引、都市・国・地域の省エネルギー政策、先進国・新興国・途上国のCO2排出量、2050年までの地球温暖化防止

【教科書】

【参考書】環境工学教科書，環境工学教科書研究会編著，彰国社，1996

【予備知識】建築設備システム，建築環境工学IおよびIIの予備知識が必須である。

【授業URL】

【その他】[オフィスアワー](質問等の受付)講義時間の前後(その他の時間帯で質問を希望する学生は、担当教員のアポイントを取ること)

建築光・音環境学

Lighting and Acoustics in Architecture

【科目コード】40320 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・1時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】高橋・石田・伊勢

【講義概要】快適かつ安全な環境を構築するため、建築計画上考慮すべき基本的な物理環境要素のうち、音響、光、色彩についての理論と関連技術及び、実務設計への応用などについて講述する。なお、当該科目を修得するためには関連する基礎事項（「建築環境工学II」で講述される）を理解しておくことが必要となる。

【評価方法】期末試験の成績で評価する。

【最終目標】建築計画上必要となる音響、光、色彩についての理論と関連技術及び、実務設計への応用などを習得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C. 実践能力, C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
音の測定と評価	2	音の物理量測定に関する基礎事項の説明、及び、騒音と室内音響における各種音響評価指標の説明とそれらの計測方法について概説する。
騒音防止計画	3	建物内外における騒音の発生から伝搬、さらに受音に至るまでの過程とその性状を説明し、それらの過程でなされる可能な各種騒音対策方法について概説する。
室内音響計画	2	室内の音場を、その目的に合った最適な音響状態にするための基本事項と、その手法について概説する。室内音響学はホール音響の変遷とともに発展してきた。ここではその歴史的経緯も併せて説明する。
明視環境と視覚特性	2	快適で安全な視環境を設計するために考慮すべき事項を人間の視覚特性に基づいて解説する。照度と視力、輝度対比と視認性、明視条件、グレア、明るさ感、視覚の加齢効果など。
建築照明の設計と評価	2	建築照明の考え方と基礎的手法、さらに光環境の心理的影響について概説する。室内間接照度の計算、昼光と人工照明、採光、建築照明の手法と事例、照明環境の心理評価など。
表色系の応用と照明工学	2	表色系の発展としての均等色空間を紹介し、その照明工学への応用について説明する。均等色空間と色差、人工光源、色温度、演色性評価、色順応など。
建築色彩	1	日常環境における色の見え方、色彩情報の活用、建築色彩の基本的な考え方について概説する。

【教科書】「エース建築環境工学I(日照・光・音)」松浦・高橋，朝倉書店

【参考書】

【予備知識】建築環境工学IIを習得しておくことが必要。

【授業URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 金曜日 17:00-18:00

建築温熱環境設計

Thermal Environment Design of Architecture

【科目コード】40600 【配当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】火曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】鉾井修一・原田和典

【講義概要】この講義では、住宅に代表される日常生活空間の温熱環境制御技術の基礎を概説し、パッシブな温熱環境制御の方法を講述する。

【評価方法】期末試験等による。

【最終目標】温熱環境制御の要素技術とその組み合わせによる利点と弱点を理解し、住宅等の設計に取り入れるための発想力を涵養する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C: 実践能力 C1: 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
概論 - 気象と建物	2	住宅は外界気象の変動を緩和し、快適な空間を作るためのシェルターであり、その形態は気象条件と密接不可分の関係にある。概論として気象と建築形態の関係を論じ、住宅の温熱環境設計を考える上で必要な気象要素を概説する。
熱容量の利用	2	室内の温熱環境を制御するためには、壁・床・天井などの躯体に適切な熱容量を付与することが必要である。そのため、壁の非定常熱応答の理論を概説し、それを応用する方法論を述べる。
水分の功罪	2	真夏の打ち水に代表されるように、水分は蒸発により熱を奪って温熱環境を改善する効果がある。その反面、結露のような害も及ぼす。これらを総合し、水分を利用した環境制御計画について述べる。
人体の温熱生理	1	温度、湿度、気流、放射といった温熱要素の組み合わせが、人間の快適性とどのように関連づけられるかを、人体の温熱生理をもとに評価する方法を講述する。
断熱計画	2	断熱は、最も基本的な温熱環境制御の方法である。外界気象に応じた断熱計画（外断熱、内断熱など）の方法を述べ、実用的な構造方法を例示してその特質を示す。
日射遮蔽と利用	2	夏の日射を遮り、冬の日差しを室内に取り入れることによって、温熱環境は向上する。日射の利用法は、地域の気候条件により様々であり、日射利用のための設計方法と留意点を述べる。
通風・換気計画	3	暑熱時の通風は、室内の温熱環境を向上させることが多く、暑熱地域では積極的に取り入れられることが多い。その反面、むやみに通風を行うと却って環境を悪化させることもある。通風の効果と計画上の留意点を述べる。
室内空気質汚染	1	ホルムアルデヒド等のVOCによる室内空気質汚染の実態と健康被害の関係を述べ、健康な住宅を計画する手法を示す。

【教科書】なし。(プリントを配布する予定)

【参考書】講義中に適宜指示する。

【予備知識】建築環境工学 I(40090), 建築環境工学 II(40100) の知識を前提とした内容である。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 講義時間の前後 (その他の時間帯で質問を希望する学生は、担当教員のアポイントを取ること)

建築構造解析

Analytical Methods of Building Structures

【科目コード】40340 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】水曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】上谷(宏)・(防災研)河井

【講義概要】建築構造に使用される平面板の力学的性状と設計法、および建築架構とその構成要素の動力学的性状についての初等的な概説を行う。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】平面板の基礎理論と動力学の基礎理論の習得

【講義計画】

項目	回数	内容説明
平面板構造	6	壁や床など平面板構造要素の力学理論、解析法、設計法について講述する。面内変形を受ける平面板の線形支配方程式を平面応力の仮定の下で誘導し、フーリエ級数による解の誘導法を紹介する。曲げ変形を受ける平面板の支配方程式を法線保持の仮定に基づいて誘導し、数例の解法について概説する。平面板要素の設計の基本的考え方を説明する。
確率論的動力学	7	不規則外乱が作用した時の構造物の動力学性状について概説する。まず不規則外乱を受ける1質点線形系の応答の確率諸量が、振動方程式からどのように導かれるかについて説明し、次にこれを多質点系の場合に拡張し外乱と応答の間の確率諸量の関係を導く。最後に、モード分解によって連続系の応答を評価する方法を説明する。

【教科書】

【参考書】

【予備知識】建築構造力学 I, II, III

【授業 URL】

【その他】[成績評価] 期末試験により行う。[オフィスアワー](質問等の受付)月曜日 15:00-17:00 [教育目標] 専門知識と基礎知識 [対応する学習・教育目標] C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

耐震構造

Earthquake Resistant Structures

【科目コード】40360 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】水曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】林・竹脇

【講義概要】構造物の耐震設計は、地震に対する構造物の動的挙動の正しい理解を必要とする。本講では、建築構造物の震害と耐震構造の発展の歴史について概説した後、波動の伝播、地震動の性質、構造物の動力学モデルによる振動論の基礎について講述する。構造物の地震応答解析法、応答特性、および耐震設計法の基本概念と基本手順についても言及する。

【評価方法】期末試験により行う。出席状況を加味する。

【最終目標】地震動に対する建築構造物の振動解析の基礎理論を修得し、耐震設計法の基本的考え方を修得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
耐震構造の歴史	1	過去の大地震の地震動の特徴、構造物や地盤の地震被害の特徴を説明し、震害の経験を契機として発展した耐震構造の歴史について講述する。
1自由度系の線形応答	5	建物を1自由度系でモデル化することの意味を説明した後、1自由度系の運動方程式とその一般解や特解が表す振動現象について講述する。1自由度線形系を対象として、自由振動、および各種外乱（インパルス加振やステップ加振、調和加振）に対する理論解を示し、建物の固有周期・減衰定数や入力地震動特性がどのように応答に影響を及ぼすかについて講述する。
1自由度系の非線形応答	3	任意外乱を受ける1自由度系の応答について講述する。まず、任意外乱に対する1自由度線形系の応答を示した後、非線形1自由度系の振動解析法と非線形性が応答に及ぼす影響について説明する。また、任意外乱に対する応答スペクトルの概念を説明し、建物の耐震安全性評価を行う上での利用方法について説明する。
多自由度系の応答	2	多自由度系の運動方程式の構成方法について説明した後、固有値解析法やモード解析法について講述する。また、建物のねじれ振動解析法やねじれ応答特性についても言及する。
建物の応答と耐震設計	3	震源から敷地地盤に到達する地震動の伝播機構を説明し、敷地地盤に於ける地震動増幅特性と建物応答へ及ぼす影響を簡単な波動方程式によって説明する。次に、動的解析法に基づく建物の耐震設計の基本概念について述べた後、建物の耐震設計の基本手法とその歴史的発展経過について講述する。最後に、建物の応答や損傷を制御する方法として、免震・制震を取り上げ、背景となる基礎理論や実的な機構と設計法について講述する。

【教科書】教材：講義プリント、パワーポイント資料、OHP、スライド

【参考書】柴田明德著：最新耐震構造解析、森北出版株式会社

【予備知識】

【授業URL】

【その他】[成績評価] 期末試験により行う。出席状況を加味する。[オフィスアワー] (質問等の受付) 授業終了後。

鉄筋コンクリ - ト構造 II

Reinforced Concrete Structure II

【科目コード】40370 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】月曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】西山峰広・(防災研)田中仁史

【講義概要】鉄筋コンクリート建物の終局強度型設計法および設計に必要な構造部材の終局強度と限界変形予測手法を構成材料の力学的特性に基づいて講述する。また、鉄筋コンクリート構造の一種で、大スパン構造に適したプレストレストコンクリート構造の原理、特徴および基本的力学理論について講述し、その設計法を修得させる。適宜演習を課す。

【評価方法】出席状況、レポート課題提出状況、期末試験成績を総合して評価する

【最終目標】C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
R C 建物の終局強度型設計法	4	荷重係数法に基づく R C 建物終局強度型設計法の考え方、終局強度型設計に必要な部材の終局強度および変形特性予測手法、柱梁接合部等の部材接合理論について講義する。
プレストレストコンクリート構造	6	プレストレストコンクリートの発明とその基本原理、その後の歴史的展開、ポストテンション法およびプレテンション法の説明と各々の特徴につき講義する。また、材料特性、プレストレス鋼材定着部設計、自重・積載荷重およびプレストレスの複合応力下での断面応力算定法、プレストレスロスの算定法および長期荷重に対する設計法につき講義する。さらには、プレストレストコンクリート構造の構造設計に必要な、部材曲げ終局強度、部材変形能力、せん断終局強度および履歴復元力特性の特徴につき講義する。
コンクリート系構造の過去の地震被害と教訓	2	過去の地震によって被害を受けた、R C 建物の調査結果から得られた教訓に基づき、耐震設計で留意すべき点について講義する。
プレストレストコンクリート部材の載荷実験	1	プレストレストコンクリート梁に荷重を加える載荷実験を行い、ひび割れ性状、曲げ破壊性状、部材変形能力、履歴復元力特性などについて把握する。

【教科書】

【参考書】R. Park and T. Paulay 「Reinforced Concrete Structures」 John Wiley and Sons, Inc.、六車熙「プレストレストコンクリート」コロナ社、日本建築学会「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」、プレストレストコンクリート技術協会「フレッシュマンのための PC 講座」、「鉄筋コンクリート構造(第3版)-理論と設計」谷川、小池、中塚、西山、畑中 共著 森北出版

【予備知識】鉄筋コンクリート構造 I を履修し、その内容を理解していることが必要

【授業 URL】<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lecturenotes/>

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 15:00-16:00

鉄骨構造 II

Steel Structure II

【科目コード】40380 【配当学年】第3学年 【開講期】後期 【曜時限】木曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義および演習 【言語】

【担当教員】吹田啓一郎・(防災研)中島正愛

【講義概要】鉄骨構造の機能性・安全性を支配する主要因である「部材・骨組の座屈」と「部材の接合」を中心に、その理論的背景を詳述するとともに、構造設計への適用法を解説する。また適宜演習を課すことによって、構造設計実践技術の習得をはかる。

【評価方法】期末試験(筆記)を実施する。

期末試験の採点に、授業中に課す短いQUIZ、宿題などの達成度を加味して成績評価とする。

【最終目標】鉄骨構造の部材と骨組の座屈の理論を理解し、その設計法を習得する。また、高力ボルト接合、溶接接合の接合原理を理解し、接合部の設計法を習得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C.実践能力、C3.建築物を実現する能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
柱の弾性座屈	2	中心圧縮柱のオイラー座屈理論、境界条件による座屈荷重の変動、元たわみや偏心圧縮を受ける柱の挙動、仮想仕事式を用いた座屈荷重解析。
柱の非弾性座屈	1	接線係数理論と換算係数理論による非弾性座屈、シャンレー理論、座屈荷重に対する残留応力の影響。
座屈たわみ角法と骨組の座屈	2	座屈たわみ角法の基礎理論、横移動が拘束された骨組の座屈、横移動が拘束されない骨組の座屈、座屈に対する補剛効果。
梁の座屈	2	部材のねじれ、部材のそり、薄膜近似法、梁の横座屈理論。
設計荷重と部材・接合部の設計条件	1	耐震設計の手続きの概要、部材・接合部に要求される性能。
部材の設計	2	圧縮材、曲げ材、曲げと軸力を受ける部材、柱梁接合部パネル。
溶接接合部の設計	1	完全溶込み溶接、隅肉溶接の設計。
高力ボルト接合部の設計	2	摩擦接合部、引張接合部の設計。
柱脚の設計	1	柱脚の種類と設計法の概要

【教科書】井上一朗・吹田啓一郎,「建築鋼構造 - その理論と設計 - 」, 鹿島出版会

【参考書】若林實,「鉄骨の設計」, 共立出版

【予備知識】鉄骨構造 I、構造力学 I、構造力学 II、微分積分学統論 A, B

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問などの受付) 木曜日 12:00 ~ 13:00

設計演習 III

Atelier Practice of Architectural Design III

【科目コード】40390 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・4、5時限 金曜・4、5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N8・製図室3 【単位数】3 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】第1課題：高松・竹山、安枝 第2課題：高松・門内・高田・竹山・吉田・神吉・田路、構造系・環境系講師以上、安枝

【講義概要】実地調査、見学等、設計予備作業を踏まえつつ、美術館、小劇場の具体的な予見に則して設計を進めることによって、設計演習 I,II で得た成果を統合的に展開する。全系列共通課題、別プログラムとする。

【評価方法】提出作品により行う

【最終目標】[対応する学習・教育目標] A. 総合能力、A1. コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力、A2. 建築の価値を多面的に理解する能力、C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
美術館	12	美術館を構想する。特定の作品、展示物、規模等、設定された諸条件及び周辺環境の特異性に即し、作品を鑑賞するための理想的空間を論理的に創造する力を養う。[担当教員：高松・竹山]
小劇場	12	特定の目的に供する、比較的小規模な劇場の構想を通して、非日常的な時間を集散的に体験する空間の可能性について模索し、かつこれを設計する能力を培う。同時に、構造及び環境と意匠との統合を学ぶ。各自、計画系教員が開設する6スタジオのうちひとつを選択し、加えて構造系・環境系が開設するスタジオの中から各々1スタジオを選び、草案批評と指導を受ける。なお、プログラムはスタジオごとに設定する。[担当教員：高松・門内・高田・竹山・吉田・神吉・田路、構造系・環境系講師以上]

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週月曜 18:00-19:00

設計演習 IV

Atelier Practice of Architectural Design IV

【科目コード】40400 【担当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】火曜・3～5時限、水曜・4、5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N8・製図室3 【単位数】3 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】第1課題：高田・河井、構造系・環境系講師以上、安枝 第2課題：門内・高松、構造系・環境系講師以上、岸

【講義概要】高齢者居住施設、小図書館の課題を通して建築空間設計の基礎知識と各種建築の専門知識の取得を目指す。特に、建築のプログラムとそれらに適切な構造・環境システムを総合的に建築空間として表現する実践的能力の涵養を目指す。2系列共通課題、別プログラムとする。

【評価方法】提出作品による

【最終目標】[対応する学習・教育目標] C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
高齢者居住施設	12	加齢とともに身体的能力が低下し、行動範囲が狭くなってゆく高齢者の居住施設を設計する。高齢者がグループで居住するグループホームとし、高齢者相互のコミュニケーションと個人のプライバシーを両立させ、個人の活動を通して出来るだけ自立できる居住空間を目指す。[担当教員：高田・河井、構造系・環境系教員]
図書館	12	小規模な図書館を構想する。訪問者が本に出会う多様な在り方やこれを支える諸機能（開架図書室、ブラウジングルーム、レファレンスコーナー、児童閲覧室、閉架図書室など）及び蔵書の管理方法や運営システムを踏まえ、必要諸空間の分離・統合のシステムを論理的かつ空間的に創造する力を養う。また同時に、構造及び環境と意匠とを総合的に計画する能力を鍛える。[担当教員：高松・門内、構造系・環境系教員]

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週火曜 18:00-19:00

建築応用数学

Applied Mathematics for Architecture

【科目コード】40540 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義・演習 【言語】

【担当教員】加藤・銚井・高橋・(防災研)川瀬

【講義概要】建築計画・構造設計・環境設計等の建築全般にわたって必要な応用数学を解説する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】具体的には、常・偏微分方程式、積分変換、確率・統計学、変分学についての基礎を学習、習得する。

学科で掲げる学習・教育目標のなかのB 専門知識と基礎知識 B1 科学的問題解決能力 D 先駆性 D1 問題発見・解決能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
常・偏微分方程式	3～4	常微分方程式の一般解法について解説する。定係数高階常微分方程式、定係数連立一階常微分方程式を中心に解説する。また、建築への応用についても言及する。
積分変換	4～5	周期関数に対するフーリエ級数，非周期関数に対するフーリエ変換およびラプラス変換などの応用的手法を解説する。
確率・統計学	2～3	マルコフ過程などの確率過程の基礎を紹介し，待ち行列理論によるモデル化について講述する。また，回帰分析などの統計的手法を講述する。
変分学	2～3	汎関数の定義，オイラーの方程式，ラグランジュ乗数法，リッツ・ガラーキン法について講述する。またその応用例として，最短距離や極小曲面を求める問題及び，エネルギー原理についても言及する。

【教科書】加藤直樹，銚井修一，高橋大次，大崎 純，「建築工学のための数学」，朝倉書店，2007

【参考書】授業中に適宜紹介する。

【予備知識】「微分・積分学」，「統計数理A」，「工業数学C」を予備知識として仮定している。

【授業 URL】なし

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 15:00-17:00

建築情報システム学

Architectural Information Systems

【科目コード】40550 【配当学年】3年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・3時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N8 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義・実習 【言語】

【担当教員】加藤・大崎

【講義概要】建築を数理システムとしてモデル化して解析・設計を行なうための理論及び手法を解説するとともに、システム工学と情報工学の建築設計への適用例を紹介する。

【評価方法】期末試験(7割), レポート(3割)により行う。

【最終目標】数理計画法, 組合せ最適化手法, データ分析, パラメトリック曲線・曲面などの基礎を学習し, 応用能力を習得する。

学科で掲げる学習・教育目標の中の, D 先駆性 D1 問題発見・解決能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築情報システム学の概要	1	建築設計及び構造解析における情報工学とシステム工学の役割を解説し, 建築の分野特有の問題点を紹介する。
数理計画法の応用	4 ~ 5	線形計画法, 非線形計画法, 多目的最適化などの基礎を解説し, 建築の構造最適化などへの適用例を紹介する。
組合せ最適化手法の応用	3	資源配分問題などの組合せ最適化問題の典型的な例と分枝限定法等による解法を紹介し, 建築施設配置や室配置の最適化への適用例について講述する。
曲線と曲面の理論	2	パラメトリック曲線, ベジエ曲線(曲面), B スプライン曲線(曲面)などの手法の基礎を解説し, 建築への適用例を紹介する。
データ分析とその応用	3 ~ 4	大量データから有用な知識を発見する情報処理技術であるデータマイニングの基礎を解説する。建築・都市への応用について紹介し, 具体的データをもとに計算機実習をおこなう。

【教科書】加藤直樹, 大崎 純, 谷 明勲,

「建築システム論」, 造形ライブラリー 3, 共立出版, 2002.

【参考書】加藤直樹, 「数理計画法」, コロナ社, 2008.

加藤直樹, 羽室行信, 矢田勝俊, 「データマイニングとその応用」, 朝倉書店, 2008.

三井和男, 大崎 純, 大森博司, 田川 浩, 本間俊雄, 発見的最適化手法による構造のフォルムとシステム, コロナ社, 2004.

その他, 授業中に適宜紹介する

【予備知識】「線形代数学」を予備知識として仮定している。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 15:00-17:00

建築計画学 II

Architectural Planning II

【科目コード】40270 【配当学年】第4学年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・1時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】門内輝行

【講義概要】現代の建築の計画・設計に関する基礎的な知識や方法について講ずる。すなわち、人間と環境との関係を観察・記述・評価し、それをもとに建築を含む生活環境を計画・設計する方法について解説する。まず、建築計画における理論と実践の系譜と新たな可能性を見た上で、行動科学や認知科学等に基づく人間-環境系研究をふまえた新たな建築計画の方法と、設計プロセスの仕組みや設計主体の役割について概説し、人間-環境系のデザインとして建築計画の方法論を展望する。

【評価方法】期末試験により行う。

【最終目標】人間と環境との関係に基づく、建築空間の実践的なデザイン能力を育む。

C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築計画の理論・実践の展望	2	生活と空間との対応関係を解明する建築計画の発展の系譜を概説すると共に、機能・意味、形態・空間、場所性・歴史性、環境・社会・情報等の多角的な視点から、今後の建築計画の理論と実践のあり方を展望する。
人間-環境系研究と建築計画	3	人間の知覚・行動・認知・記憶等の仕組みをふまえて、人間と環境との関係を探求し、人間にとって真に望ましい建築空間を計画・設計するための基礎的な知識を講述する。行動科学や認知科学の成果をふまえて、行動を促進し、意味を誘発する建築・都市空間の計画法を講述する。
設計方法論と建築計画	3	設計プロセスの仕組みを、設計対象、設計主体、設計言語などとの関連を含めて解明する設計方法論を解説する。技術合理性に根ざして問題を解くシステムティックな設計から、現実の複雑で不確実な問題に対して、状況からの応答に耳を傾けながら柔軟に問題を解く対話による設計まで、建築計画に活用できる多様な設計方法について概説する。
人間-環境系のデザイン	3	21世紀を迎えて、環境共生、高齢化、情報化、国際化、都市再生など、建築計画をめぐるニーズや価値観が大きく変化しており、建築を計画する場合にも、それが人間-環境系にどのような影響を及ぼすかを十分に把握した上で、デザインすることが求められている。そこで、サステナブルデザイン、ユニバーサルデザイン、情報化対応のデザインなど、新しい建築計画のあり方を概説する。
建築計画の方法論	2	プログラミング、プランニング、デザインング、マネジメント、コラボレーション等の計画方法、フィールド調査、観察調査、統計的手法、実験的方法、モデリングやシミュレーション、決定・評価手法等の研究方法など、現代の建築計画を支援する方法、及び建築計画の学術体系を展望する。

【教科書】授業は配付プリント、及びプロジェクタによるスライドを用いて行う。

【参考書】日本建築学会（編）『人間-環境系のデザイン』彰国社、1997年。

日本建築学会（編）『建築・都市計画のための空間計画学』井上書院、2002年。

その他、授業中にその都度紹介し、文献リストも配布する。

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】E-mail でアポイントをとること（ monnai@archi.kyoto-u.ac.jp ）

教室（桂 / 建築棟 2 階 204 号室、電話 075-383-2927）

景観デザイン論

Theory of Landscape Design

【科目コード】40410 【配当学年】第2学年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・2時限

【講義室】工学部3号館北棟4階 N7 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】竹山・田路

【講義概要】都市景観、自然景観、庭園に関する諸理論を概観し、景観デザインの方法論的概念としての記号、象徴、空間などの意味について概説する。あわせて近代の建築家による具体的な提言、提案の解説を通して、風景の蘇生をめぐる諸問題について講述する。

【評価方法】レポートによる。

【最終目標】学科で掲げる学習・教育目標の中の、B. 専門知識と基礎知識、B2. 建築の設計・計画的側面の理解能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
人間居住形態の変貌と景観形成(竹山担当)	7	人間はこの地球上に姿を現して以来、さまざまな居住形態を築きながら、生活を営んできた。集落、都市の発生過程を振り返りながら、各時代ごとの空間概念を辿るとともに、これを景観形成ととらえて未来のあるべき居住形態を考察する。1. 人間圏の成立, 2. 都市の発生, 3. 都市の論理, 4. 都市のプレゼンテーション, 5. 都市のプログラム, 6. テクノロジーと居住形態,
環境の解釈学と風景の構成論(田路担当)	7	現象としての生きられた景観について概観し、次に、風景の空間構成に関する諸理論の分析を通して、人間存在にもとづく景観の構造と意味を建築論的に探る。同時に、多様な景観設計の手法について、具体的事例に則して、意匠論的に考察する。1. 環境を解釈すること, 2. 風景の意味と構成の理論 - 1, 3. 風景の意味と構成の理論 - 2, 4. イギリス風景庭園 - 1 (寓意性の庭園), 5. イギリス風景庭園 - 2 (風景の性格), 6. 庭園から都市風景の創造へ。

【教科書】竹山聖著「臨床建築学 - 死の形式から生の形式へ」(子安増生編著『芸術心理学の新しいかたち』誠信書房、所収), 田路貴浩著『環境の解釈学』学芸出版

【参考書】竹山聖著『独身者の住まい』廣済堂出版, 竹山聖著『ぼんやり空でも眺めてみようか』彰国社

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 講義時間の前後

建築基礎構造

Foundation Engineering

【科目コード】40350 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・2時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】(防災研)川瀬・(防災研)田村・辻

【講義概要】建築構造物を地盤に安全に支持させるためには、構造物を支える基礎構造の挙動を評価し、安全性を検討する必要がある。基礎構造の挙動には、基礎構造のみならず地盤の力学的挙動が大きく影響する。従って、まず土及び地盤の基本的な力学的特徴について講述する。次いで、地表または地盤中に設置された基礎構造に上部構造又は地盤から荷重が作用したときの挙動の特徴、そのメカニズムと評価方法について解説する。

【評価方法】期末試験により行う

【最終目標】基礎知識・基礎理論の習得

学科で掲げる学習・教育目標の中の、B・専門知識と基礎知識、B3・建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築基礎構造概説	1	本講義で学ぶ内容の位置づけを理解するため、土質工学と基礎構造に関する全体像について概説する。
土の力学的性質（基礎編）	3	土に力が作用したときの挙動の特徴は圧縮とせん断に分けることができる。この弾性体としての土の力学的挙動の基本的性質を解説する。
土の力学的性質（粘性土と砂）	3	粘性土の圧密沈下および砂地盤の液化化について解説する。
建築基礎構造の地震被害	1	建築基礎構造に作用する荷重に対する挙動の特徴と、震災等の被害事例を示して、建築基礎構造の課題について概説する。
建築基礎構造の設計計画	2	地盤調査から地盤の力学的特徴を評価し、それを考慮して基礎構造を計画するプロセスについて解説する。
直接基礎の挙動	1	直接基礎の鉛直支持力と沈下について解説する。
杭基礎の挙動	2	杭の鉛直支持力および水平抵抗について解説する。

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 17:00-18:00

耐風構造

Wind Resistant Structures

【科目コード】40420 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・2時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】<防災研>河井・<防災研>丸山

【講義概要】本授業では建築物が風から受ける力を理解するために、風の発生原因となる気象現象について概説し、建築物周辺に生じる流れと風圧の関係を論じる。また、建築物の風に対する安全性を確保するための設計用風荷重の評価方法及び建築物の耐風設計手法を建築基準法・施行令および建築物荷重指針に基づいて解説する。

【評価方法】レポートあるいは試験により行う。

【最終目標】B．耐風設計に関する専門知識と基礎知識の修得、B3．建築物の風荷重算定，耐風設計からみた建築の構造的側面の理解。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
風の発生機構	4	地球の運動や熱収支に伴って生じる大気の循環から、低気圧、前線、地形等による風の発生機構を概説する。とくに、建築物の耐風設計上重要となる強風については、台風や竜巻など、その発生原因別に特徴を述べる。
流れを記述する基礎方程式	4	空気の流れを記述する連続の式、ナビエ・ストークス方程式を誘導し、物理的意味を説明する。次に、非圧縮・非粘性・定常を仮定した簡単な流れ場に対する方程式を求め、物体表面の圧力を評価する式を示す。
風荷重	2	風荷重の基礎となる風速の評価方法について、自然風のもつ性質、測定方法、予測手法などについて解説し、設計用風荷重の算定方法について述べる。
耐風設計	4	壁面風圧・風による振動等について解説し、風荷重に対する建築物の安全性を確保するための設計手法について説明する。また、建築基準法および建築物荷重指針に基づいて、中高層建築物の風荷重を算定する方法を説明し、風荷重を算定する。

【教科書】全体的な教科書はなく、すべてノート講義である。各項目での参考書等があれば、その都度紹介する。

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー](質問等の受付) 授業の後 1 時間程度、あるいは火曜日 17:00 - 18:00(防災研究所)。

地球工学総論（地球工学）

InTroducTion To Global Engineering

【科目コード】30011 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・4時限 【講義室】共通 155

【単位数】2 【履修者制限】制限する場合がある 【講義形態】講義・演習 【言語】

【担当教員】関連教員全員

【講義概要】地球工学総論は、専門教育の最初かつ唯一の必修科目として、全体講義と少人数ゼミのハイブリッド形式で実施する授業科目である。系統的な講義によって、「地球工学という学問とは何か、それが目指すべき方向や貢献すべきことがらが何であるか」について解説するとともに、個別教官によるゼミ形式の指導のもと、地球工学に関連した具体的な課題に自身で取り組むことによって、「地球工学科に在籍する4年間に何を学修すべきで、また、それにどのように取り組むべきか」について自ら学ぶ機会とする。

【評価方法】全体講義については、出席とレポート等によって評価する。また、少人数ゼミについては、課題に取り組む姿勢と課題に対するレポートの成績にもとづいて評価する。

【最終目標】地球工学科に在籍する4年間に何を学修すべきで、また、それにどのように取り組むべきかを修得する。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
ガイダンス	1	本講義の内容（授業構成、全体講義の内容、少人数ゼミ実施要領等）について説明する。
安全と工学倫理	1	地球工学科での学習と研究活動に際して持つべき安全に対する意識と、技術者・研究者として持つべき工学倫理について解説する。
全体講義	5	21世紀の課題と地球工学が果たすべき役割について、土木、環境、資源の各分野の視点から講述する。
少人数ゼミ	6	10名程のグループに分かれ、地球工学科に関係しているいずれか1つの研究室で少人数ゼミ形式の授業を受ける。その中で、教官の指導の下、地球工学に関連した特定の課題（調査・実習・実験など）を選択し、それに自ら取り組む。
研究室訪問	1	地球工学科のいくつかの研究室を訪問し、地球工学科では実際にどのような研究活動を行っているのかについて見て、聞くことにより、地球工学の役割や重要性について理解を深める。

【教科書】全体講義においては、適宜プリントを配布する。

【参考書】少人数ゼミにおいては、各自の指導教官から指示される。

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】少人数ゼミの指導教官からは、事前に相談しておけば、講義時間に関係なく個別指導を受けることができる。

設計演習 V

Atelier Practice of Architectural Design V

【科目コード】40440 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】火曜・3～5時限、水曜・5時限

【講義室】桂キャンパスC2棟2階 デザインラボ 【単位数】3 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】高松・門内・高田・竹山・吉田・山岸・田路・神吉、岸・守山

【講義概要】特定の課題を通して、より深く建築設計上の諸問題を掘り下げる訓練を行う。計画系教官が開設するスタジオ毎に、各指導教官により設定されたテーマとプログラムに基づき、高度な建築設計のトレーニングを行う。

【評価方法】提出作品にて行う。

【最終目標】[対応する学習・教育目標] C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
語りかける建築	15	「語りかける建築」と言い表し得るような建築を構想し、これを独自の表現方法を通じて具体化する方法を探究する。[担当教員：高松]
都市と建築	15	都市の中の建築は、他の人工物や人間・環境とのネットワークを形成する結節点として存在する。京都という都市をフィールドとして、魅力的な場所と風景を創発する新しいタイプの建築（の集合）のデザインを探求する。[担当教員：門内]
「境界線の相対化」による都市空間の再生 - 京都の場合 -	15	近代化の過程で、都市空間は様々な境界線によってズタズタに細分化された。「境界線の相対化」とは、こうした現象を見直し、共有資源（Commons）としての都市空間を有効に活用するとともに、公と私の新たな秩序を構築しようという構想である。[担当教員：高田・神吉]
地域形成史の解明	15	文献・実地調査から地域の歴史的変遷過程を解明し、その地域の歴史的環境の保全と再生を試みる。[担当教官：山岸]
ユートピア	15	どこにもない場所を求めて、歴史上人類はさまざまな試みを繰り返してきた。建築はひとつの宇宙を展く。どこにもない場所へと誘う建築を構想してみよう。[担当教員：竹山]
CITY GATE KYOTO 20 09	15	京都の中心エリアを訪れる有象無象の人々を迎え入れるゲートとなる建築、歩行・休憩のための空間のネットワークを構想する。[担当教員：吉田]
建築のフォームとデザイン	15	建築家たちが挑んできた「フォーム」と「デザイン」との往還の軌跡を、その実現された作品のうちに確認する。そして、その作業を通して、自らが着想する建築空間のモチーフが具現化される過程を自覚的に体得する。[担当教員：田路]

【教科書】

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週火曜 18:00-19:00

構造設計演習

Exercises on Structural Design of Buildings

【科目コード】40450 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】金曜・4時限および5時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義と演習 【言語】

【担当教員】金子・西山・吹田・河野・(非)小倉

【講義概要】与えられた外力および応力状態の下で鉄筋コンクリート造および鉄骨造建築物の構造安全性を確保するための力学理論および各部設計の手法を講述し、部材、接合部および基礎構造に要求される強度、変形性能および安定性などの力学性質を満足させるための構造設計演習を課す。

【評価方法】出席状況および提出されたレポートに基づいて評価を行う

【最終目標】A. 総合能力、A2. 建築の価値を多面的に理解する能力、C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
構造設計の考え方	2	構造設計では、構造計画、構造解析、部材及び架構の設計を一貫して捉える必要がある。ここでは、構造設計の意味を上記各項目と関連させて説明し、実際の建築構造物の構造設計に、材料、構造力学、および各種構造に関する知識をいかに反映させるかを実設計と関連させて講述する。
設計用荷重	1	構造物に作用する各種荷重（固定、積載、風、地震、雪荷重）の性質とその設定方法について説明する。
鋼構造小規模建築物の構造計画と構造設計	5	簡単な立体骨組みを鉄骨構造によって設計する設計演習を課す。与えられた設計条件のもとで、現行の設計規基準に基づく構造設計を行う。設計用荷重の設定、構造計画、架構分解、部材設計、接合部設計を行い、計算書と構造設計図の作成課題を課す。
コンクリート系建築構造物の構造設計	5	鉄筋コンクリート造建物に要求される各種性能（耐久性、常時使用性、耐震性など）を満足させるための構造設計演習を行う。演習では、単純なモデル建物を設定し、鉛直荷重及び与えられた設計用静的地震荷重に対する応力解析、部材設計及び接合部設計を行い、さらに、設計された建物が保有する保有水平耐力および崩壊形態を求める。

【教科書】

【参考書】日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、鉄筋コンクリート構造計算用資料集」および「鋼構造設計規準」、日本建築学会関東支部「鉄筋コンクリート構造の設計」

【予備知識】建築構造力学 I ~ III、鉄骨構造 I, II、鉄筋コンクリート構造 I, II、耐震構造

【授業 URL】<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lecturenotes/>

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 金曜日 17:00-18:00

構造・材料実験

Laboratory Tests of Structural Materials and Members

【科目コード】40460 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・3時限および4時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101ほか 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義と実習

【言語】 【担当教員】金子佳生・西山峰広・吹田啓一郎・河野進・李有震

【講義概要】コンクリートの調合設計演習、セメント、骨材、鋼材、木材の基本的な材料物性実験や非破壊試験の実習を行う。また、コンクリート、鋼、木材の応力 - ひずみ関係や強度、破壊性状を調べる実験、木造、鉄筋コンクリート、鉄骨梁の曲げせん断載荷実験、高力ボルト接合部の引張実験を通じて建築構造部材・接合部の特徴的な挙動を把握する。

【評価方法】単位修得には、原則として、全実習に参加し、全レポートを提出することが必要条件となる。出席状況とレポートにより成績評価を行う。

【最終目標】B. 専門知識と基礎知識、B3. 建築の構造的側面の理解能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
コンクリートの調合設計、各種建築材料実験法と構造実験法	2	建築材料の基本物性に関する実験方法ならびに構造実験法に関する講義を行う。コンクリート調合設計に関して解説し、演習を行う。
コンクリートの製造と実験用 RC 梁の製作	1	鉄筋コンクリート (RC) 梁を製作し、スランプ試験などのフレッシュコンクリートに関する材料試験を行う。
材料実験実習	3	セメントの比重、強度試験、フロー試験 骨材のふるいわけ試験、単位容積重量および実積率試験 鋼材の硬さ試験 コンクリートの非破壊試験
構造実験 (1)	2	コンクリート、鋼材、高力ボルト接合部および木材の強度、応力 - ひずみ特性、コンクリートの横拘束効果に関する実験実習
構造実験 (2)	3	RC 梁、鋼梁、木質部材接合部の載荷実験演習
構造実験結果報告会	2	構造実験結果についての報告レポートを発表する。また、提出されたレポートの講評を行う。

【教科書】建築材料実験用教材 (日本建築学会)

【参考書】

【予備知識】構造力学、建築材料、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造に関する基礎知識を修得していることが望ましい。

【授業 URL】<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/lecturenotes/>

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 月曜日 17:00-18:00

建築安全設計

Fire Safety Design of Buildings

【科目コード】40470 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】金・3時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】<防災研> 田中哮義・原田和典

【講義概要】人々の生活空間である建築物および都市には、普段は目立たないものの様々な火災安全対策が施されている。この講義においては、建築物における火災現象の基礎知識を講義し、安全な建築物を設計し維持管理するための基本的考え方を修得させる。

【評価方法】期末試験等により行う。

【最終目標】建築物の企画・設計において考慮すべき火災安全対策の概要を理解し、基本的な用語とその意味、建築設計への応用方法を習得する。学科で掲げる学習・教育目標の中の、C. 実践能力 / C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
概論 - 建築物における事故の実態	1	建築物における種々の事故の実態を概説し、建築物の安全設計の骨格を示す。これら事故の中で火災に注目し、都市および建築の火災の歴史を概観しながら、火災安全対策の発展過程を総括する。
火災現象の基礎知識	7	着火と燃焼、身近な可燃物の燃焼性状、火災ブルーム、初期燃焼拡大、フラッシュオーバーと盛期火災などの建築火災における物理化学現象の基礎的事項を講述する。
建築物の火災安全設計	7	火災の拡大を抑止するための防火区画の計画、在館者の避難と消防活動、煙制御、構造耐火設計などの建築設計に係わる火災安全上の留意事項を示し、安全計画の方法を講述する。

【教科書】建築火災のメカニズムと火災安全設計、(財)日本建築センター、2007

【参考書】堀内三郎監修：新版建築防火、朝倉書店

田中哮義：建築火災安全工学入門、(財)日本建築センター

国土交通省住宅局建築指導課他：避難安全検証法の解説及び計算例とその解説、井上書院

国土交通省住宅局建築指導課他：耐火性能検証法の解説及び計算例とその解説、井上書院

【予備知識】建築環境工学 I, II を受講済みであることが望ましい。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 講義時間の前後 (その他の時間帯で質問を希望する学生は、担当教員のアポイントを取ること)

建築環境工学実習

Practical Training in Architectural Environmental Engineering

【科目コード】40630 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・3,4時限

【講義室】桂キャンパスC2棟1階 101ほか 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】実習 【言語】

【担当教員】(防災研)田中(哮)・銚井・高橋・伊勢・原田・上谷(芳)・石田

【講義概要】建築物内外の熱,湿気及び空気環境,換気,日射,採光,照明,音響に関する諸量の測定実験を行い,その結果の解析と評価を通して建築環境工学に関する基礎理論を修得する.さらに実設計例を通して,光環境,温熱環境,音環境の解析法と評価法を修得する.

【評価方法】レポートの提出と出席状況により行う.

【最終目標】建物に関わる音・光・熱・空気などの物理環境とその影響に関する測定・評価法などを学ぶ.学科で掲げる学習・教育目標の中の,C.実践能力,C1.建築物を実現する能力.

【講義計画】

項目	回数	内容説明
温熱環境の計測と評価	3	室内温熱環境(温湿度、放射温度)に関する計測と結果の解析・評価
空気環境の計測と評価	1~2	汚染物質(CO ₂ , CO, 粉塵)の濃度の計測と結果の解析・評価
屋外気象の計測と評価	2	温度、湿度、風向、風速、日射量、照度、輝度など、屋外気象要素の計測と結果の解析・評価
光環境の計測と評価	3	採光・照明,建築色彩に関する計測と結果の解析・評価.測光量,立体角投射率,昼光率など基礎事項の理解,照度計を用いた室内照度分布の計測,輝度計を用いた室内輝度分布の計測,物体表面の分光反射率の測定と測色値の計算など.
騒音測定と音環境評価	3~4	音環境に関する計測と結果の解析・評価.騒音レベル,吸音率,透過損失など基礎事項の理解,騒音計を用いた室内外の騒音レベルの測定,室内騒音レベルの算定.アクティブ騒音制御システムを用いた騒音制御の理解とその測定方法の実習.
実設計例の見学	1	実際の建物等の見学を通して,建築環境工学の実務を理解する.

【教科書】なし.演習中に適宜資料を配付する.

【参考書】演習中に指示する.

【予備知識】受講者は,建築環境工学I,建築環境工学II,建築設備システムの講義を履修済みであることが望ましい.

【授業URL】

【その他】当該年度の状況に応じて,実習の一部を追加・省略することがある.

[オフィスアワー(質問等の受付)] 水曜日 16:00-17:00 木曜日 16:00-17:00

建築環境工学演習

Seminar of Practice in Architectural Environmental Engineering

【科目コード】40230 【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】水曜・1, 2時限

【講義室】桂キャンパスC 2棟1階 101ほか 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】演習 【言語】

【担当教員】(防災研)田中(哮)・銚井・高橋・伊勢・原田・上谷(芳)・石田

【講義概要】建築環境工学 I, 建築環境工学 II, 建築設備システムなどの授業において講述した内容の総合的理解を深め, さらにそれを展開する能力を身につけるための演習である。テーマごとに適切な課題を与え, 実際の建築への応用を目標に, 各自が独力で思考しながら知識を習得できるような演習形態とする。

【評価方法】レポート提出と出席により行う。

【最終目標】建築環境工学に関する総合的理解を深め実践能力を養う。学科で掲げる学習・教育目標の中の、A. 総合能力, A2. 建築の価値を多面的に理解する能力, C. 実践能力, C1. 建築物を実現する能力。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
熱・結露	3	(1) 建築壁体の定常伝熱：熱伝導率, 熱貫流率, 表面熱伝達率, 日射の等価気温 (2) 非定常伝熱：貫流・吸熱応答, 重み関数とコンポリューション (3) 結露：表面結露, 内部結露, 断熱材, 防湿層
空調システム	3	(1) 空調熱負荷計算：室に流出入・発生する種々の熱量を把握し負荷を計算 (2) 空気解析：熱負荷から供給風量を算定 (3) 管内流の抵抗, 異形部の流動抵抗, 空調ダクトの設計法 (4) モリエ線図による冷凍機効率計算 (5) 空調システムの空気状態変化
建築音響	2	(1) 騒音レベル, 周波数特性とオクターブバンド, 音の距離減衰, 塀による遮音 (2) 残響時間の計算。最適残響時間の設計
照明・色彩	1～2	測光量の理解と計算, CIE XYZ 表色系による測色値の計算と応用
日照・採光	1～2	太陽位置, 日影曲線, 立体角投射率, 昼光率などの基礎事項の理解と具体的な建物に応用する演習
換気と煙制御・避難	2	(1) ベルヌーイの式, 室内外圧力差, 抵抗係数, 風圧係数, 中性帯などの換気力学の基礎 (2) 火災時の避難と煙制御システムの設計
特別講義	1～2	実務にたずさわる講師による講演とそれに対するレポート

【教科書】なし。演習問題は毎回の演習で提示する。

【参考書】下記科目の講義ノート, 教科書等を持参すること。また, 関数計算が可能な電卓を各自用意すること。

【予備知識】受講者は, 建築環境工学 I, 建築環境工学 II, 建築設備システムの講義を履修済みであることが望ましい。

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] (質問等の受付) 講義時間の前後 (その他の時間帯で質問を希望する学生は, 担当教員のアポイントを取ること)

専門英語

English for Architects

【科目コード】40650 【配当学年】4 【開講期】前期 【曜時限】金曜・2時限

【講義室】桂キャンパスC 2棟1階 101 【単位数】2 【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】

【担当教員】Geoffrey P. Moussas

【講義概要】Basic English vocabulary for communicating and presenting architectural projects and construction documentation.

【評価方法】Evaluation: Test - 30%, Homework - 30% Presentations - 30%. Attendance - 10%.

【最終目標】

【講義計画】

項目	回数	内容説明
Basic Terminology	3	Slide presentations: A general overview of architectural terms in English. Presentation of four seminal projects, discussed in greater detail.
Labels and captions	1	Presentation of basic construction documentation labels and photograph captions in English, followed by student exercises.
Critical, Theoretical and Descriptive Texts	2	Basic readings on architecture in English followed by group discussion.
Student presentations	2	Short presentations in English by students on selected architectural texts.
Project Presentation	2	Slide presentation of a single project in English from design phase through to completion, followed by group discussion.
Quiz / Essay	1	Student test of basic terminology, essay writing and drawing labeling.
Final presentation by Students	2	Short presentations in English by students on selected design projects.

【教科書】

【参考書】Kenneth Frampton, *Modern Architecture: A Critical History*, Thames and Hudson, 1992. Christopher Alexander, *A Pattern Language*, MIT Press, 1977. Peter G. Rowe, *Design Thinking*, MIT Press, 1987. Tanizaki, Jun'ichiro, *In Praise of Shadows*, Leet's Island Books, 1997. John Lobell, *Between Silence and Light, Spirit in the Architecture of Louis I. Kahn*, Shambhala. Francis D.K. Ching, *Building Construction Illustrated*, John Wiley and Sons, 1991. William Curtis, *Modern Architecture Since 1900*, Phaidon Press, 1996.

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】

建築造形実習

Fundamental Training in Architectural Design

【科目コード】40720 【配当学年】1年 【開講期】前期 【曜時限】月曜・3～5時限

【講義室】工学部3号館北棟 N7・情報処理演習室3・製図室1 【単位数】2 【履修者制限】無

【講義形態】実習 【言語】 【担当教員】高松・片桐、高取・守山

【講義概要】建築形態と空間構成の基本的な把握、及びその視覚的表現の訓練を通じてプレゼンテーションの基礎的技術を習得する。1学年を2系列に分け、前半・後半入替制にて建築ドローイング、CG・CADの両方を履修する。

【評価方法】提出作品により行う

【最終目標】C. 実践能力、C1. 建築物を実現する能力

【講義計画】

項目	回数	内容説明
建築ドローイング (平面)	6	実例をもとに、鉛筆による初歩的な建築ドローイングテクニックを習得するとともに、ドローイングを通してそれらの建築の理論、構成、美しさを学ぶ。[担当教員：高松]
CG・CAD	6	2次元CADソフト及び3次元CGソフトの基本的な操作を習得し、CGパースやCGアニメーションの制作を通して、建築の表現方法を学ぶとともに、デジタルツールを利用した設計・プレゼンテーションの基礎を築く。[担当教員：片桐]

【教科書】「Design Essence from Sketchbook」高松伸 著（京大学術出版会）

【参考書】

【予備知識】

【授業 URL】

【その他】[オフィスアワー] 毎週月 18:00-19:00

工学倫理

Engineering Ethics

【科目コード】21050 【配当学年】4年 【開講期】後期 【曜時限】金曜・1限 【講義室】共通3・桂A1-131 【単位数】2

【履修者制限】無 【講義形態】講義 【言語】 【担当教員】工学部長・田中(一)・松久 他関係教員

【講義概要】現代の工学技術者、工学研究者にとって、工学的見地に基づく新しい意味での倫理が必要不可欠になってきている。本科目では各学科からの担当教員によって、それぞれの研究分野における必要な倫理をトピックス別に講述する。

【評価方法】出席及びレポート

【最終目標】

【講義計画】

項目	回数	内容説明
イントロダクション	1	工学倫理とは。なぜいま工学倫理なのか。レポート等の提出に関する注意・成績評価基準などのガイダンスも行う。
応用倫理学としての工学倫理	1	工学倫理の基本的な考え方を、他の応用倫理との比較において検討し、現代の科学技術の特殊性について、哲学的、倫理的な考察を行う。
景観創造における倫理的姿勢	1	公共施設の景観設計、都市景観の誘導政策の実例を示し、景観、環境、防災などの複合的な目的の総合化と技術者が果たす役割、倫理的姿勢について考察する。
資源・エネルギーと環境倫理	1	社会との相互作用の強い建設、原子力産業を例に、科学技術を社会に応用するときの問題点と科学技術倫理の重要性を示す。同時に関係する人文・社会科学の学問領域《discipline》を概説する。
建築設計・施工における技術者倫理	2	安全で安心な建物を供給していくために必要な法規範や規律を紹介し、あわせて建物の設計、材料製造、現場施工など建築生産の実態を講述する。建物の事故・損傷、発注に関わる不祥事などの事例に触れつつ、建物の発注者ならびに建設産業にたずさわる技術者が持つべき倫理観を引きださせる。
原子力における工学倫理	1	あらゆる科学技術分野が関わる原子力には、人間、組織、社会に関するさまざまな倫理問題がある。原子力技術・産業およびそれを取り巻く状況を講述するとともに、原子力における倫理問題の事例を採りあげて考察する。
技術者倫理	1	ものづくりに携わる技術者が社会的責任を果たし、かつ自分を守るための思考法として技術者倫理を解説する。
特許と倫理	2	研究の成果物である発明について日本及び世界の主要国において特許による法的保護を受けるため必要な基礎的知識を学ぶとともに、特許をめぐる生じるさまざまな倫理問題について考察する。
論文執筆における倫理	1	論文を執筆して発表する際などに守るべき倫理について解説する。とくに、学術雑誌等への投稿論文に関わる者が守るべき倫理などについて詳しく述べる。
情報倫理	1	現在ウェブにつながれたコンピュータは、我々の生活から切り離せないものになっているが、反面多くの問題を引き起こしている。ウェブを利用する上で守らなければならない情報倫理について述べ、ロバストな情報システム構築に向けての技術課題について述べる。
先端化学の技術者・研究者に求められる倫理	1	化学物質は現代社会において不可欠なモノとなっているが、環境問題と複雑に関係していることもよく知られている。最近の化学工業の発展における化学物質と環境問題との関係、循環型社会での環境問題最前線、ナノ材料の危険性回避への取り組みなどを通して、関連技術者・研究者に求められる倫理などについて講述する。
製造物責任と技術者倫理 - 化学系・物理化学系技術者に関連する事例研究 -	1	家庭用洗剤の誤使用による中毒事故が後押しした「製造物責任(PL)法」の成立により、10年ほど前から、諸製品に「警告」「危険」などの表示がなされ始めたが、そこに生じ得る「営業利益と相反する技術者倫理の苦悩」について、事例研究を行い、擬似的な体験と理解をはかる。

【教科書】講義資料を配付する。

【参考書】北海道技術者倫理研究会編「オムニバス技術者倫理」、共立出版(2007)、中村収三著「新版実践的工学倫理」、化学同人(2008)

【予備知識】

【授業URL】

【その他】桂キャンパスと吉田キャンパスとで遠隔講義を行う。講義順序は変更することがある。

[対応する学習・教育目標] C. 実践能力 C3. 職能倫理観の構築

グローバルリーダーシップ (序論)

Global Leadership (Introduction)

【科目コード】21010 【配当学年】1年 【開講期】前期・集中 【曜時限】 【講義室】 【単位数】2

【履修者制限】無 【講義形態】講義(リレー公演) 【言語】 【担当教員】竹脇 出他

【講義概要】工学は、真理を探究し有用な技術を開発すると共に、開発した技術の成果をどのように社会に還元するかを研究する学問分野である。工学が現代及び将来の社会のどのような課題を解決しうるのか、社会ニーズや現場からの着想をどのように研究課題を結び付けるのか、技術の応用・展開方法・教養としての哲学・歴史観を世界のリーダーから講義形式で学ぶ。

【評価方法】講義を受講した後に、小論文様式で講義内容を再構築して記述し、それについて各自の意見とその検証方法を加えて論述する。指定された回数回の提出論文に対する評価、及び出席状況により成績を評価する。

【最終目標】工学分野での勉強が、地球環境問題の解決や安全・安心にかかわる諸問題の解決にどのように結び付くかを理解し、問題解決に向かってリーダーとして積極的に取り組む姿勢を確立し、併せて問題意識を明確にした学習能力を養成する。また表現能力向上の観点から、講義内容の論点を、自己の見解として再構築し、それを文章化する能力を養う。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
	1~3	学部入学直後に、幅広い分野で国際的に活躍する知の巨人を招き、正規受講生以外にも公開の、半日程度の新入生歓迎ガイダンス講演会を開催(平成22年度は、平成22年4月3日〔京都会館第1ホール〕にて開催予定)し、京都大学工学部における学習のモチベーションを確認・高揚する機会とする。4年次に亘り提供される本プログラムの目的と履修方法を説明・指導する。
	4	講義内容を要約し論点を整理すると共に自己の見解を小論文様式で文章化する方法を論述する。
	5~15	夏期休暇開始直後に、主として個別科学技術分野において国際的に活躍する知の巨人を招いて3日間の集中連続講義を実施する。現代社会において科学技術が果たす役割を正しく理解し、学修意欲を再確認すると共に将来の進路を定める契機とする。指定された項目に沿って講義内容や受講者の見解等を記述する小論文を作成させる。

【教科書】必要に応じて指定する。

【参考書】必要に応じて指定する。

【予備知識】特に必要としない。

【授業 URL】<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】グローバルリーダーシップ4科目の単位をすべて修得した者には修了認定証を発行する。取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

グローバルリーダーシップ (英語演習)

Global Leadership (Exercise in English)

【科目コード】22000 【配当学年】2年 【開講期】前期・集中 【曜時限】 【講義室】 【単位数】1

【履修者制限】有 【講義形態】演習 (講義を含む) 【言語】 【担当教員】和田 健司他

【講義概要】オンライン英語演習システムを用いた自習型英語演習と専門支援教員による英語の運用能力に焦点を絞った短期集中演習とのハイブリッド方式により、全学共通科目としての英語や専門課程における技術英語 (ESP) がめざす英語能力に加えて、クリエイティブな科学技術コミュニケーションが可能な英語能力の習得をめざす。

【評価方法】出席状況と自習システムによる学習状況。習得能力及び講義を受講した後に提出するレポートの内容等により成績を評価する。

【最終目標】国際的に通用する英語による会議型のクリエイティブな科学技術コミュニケーション能力を養う。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
科学技術英語序論 (ガイダンス)	1	科目内容のガイダンス。プレゼンテーション演習および自習システムの利用及び利用方法のオリエンテーション。
オンライン自習システム『ネットアカデミー』による英語演習	2~6	ネットアカデミー (スタンダードコース) を利用し、自習方演習により、基礎的な英語コミュニケーション能力を向上させる。自習の進行度に応じて課題を設定し、直接指導を随時実施する。
クリエイティブ・コミュニケーション集中演習 (集中演習)	7~15	クリエイティブ英語コミュニケーション能力を向上させるための集中演習を、複数の支援専門教員の指導の下に、夏季休暇期間中の実施する。受講生が有する英語に関する知識を活用してコミュニケーション能力を高めるためのトレーニングを行い、発話量とその質の向上を目指す。さらに、工学に関する話題についてのグループディスカッション演習を行い、英語による論議力を向上させる。

【教科書】必要に応じて指定する。

【参考書】授業開始時に関連する書籍を紹介する。また、集中演習時に適宜資料を配付する。

【予備知識】特に必要としない。

【授業 URL】<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】演習の効果を最大限に発揮させるため、受講生総数を制限する場合がある。グローバルリーダーシップ4科目の単位をすべて取得した者には修了認定証を発行する。取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

グローバルリーダーシップ (工学とエコロジー)

Global Leadership (Engineering and Ecology)

【科目コード】22100 【配当学年】2年 【開講期】前期 【曜時限】 【講義室】 【単位数】1

【履修者制限】有 【講義形態】演習 (講義を含む) 【言語】 【担当教員】和田 健司・Juha Lintuluoto 他

【講義概要】多様な環境問題に対する工学的アプローチを題材として、英語による講義と演習、グループディスカッション演習、およびプレゼンテーション演習 (インタラクティブラボ演習) を実施し、国際社会で活用し得る英会話能力の習得をめざす。

【評価方法】出席状況、修得能力、プレゼンテーション能力、演習課題に関するレポートの内容、および期末試験により成績を総合評価する。

【最終目標】国際社会で通用するレベルの英語による科学技術コミュニケーション能力ならびに環境学・生態学に関する工学的知識を養う。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
	1	ガイダンスおよび環境に関する基本課題と批判的思考
	2	環境と人口問題、生態系と地域社会、生態の遷移と復元
	3	生物地理学、生産力、およびエネルギーフロー
	4~5	世界の食糧供給、農業の効果、および環境と健康
	6~7	化石燃料、代替エネルギー資源、核エネルギーと環境
	8~11	水資源の供給と利用、水質汚濁と処理、および大気汚染
	12~13	環境経済、廃棄物処理、および環境計画
	14~15	インタラクティブラボの総括および期末試験

【教科書】Environmental Science:Earth as Living Planet 1st ed. D. Botkin & E. Kekker,2009

【参考書】授業開始時に関連する参考書を紹介する。また、演習時に適宜資料を配布する。

【予備知識】英語を用いた演習に参加可能な英会話力を要する。

【授業 URL】<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】演習効果を最大限に高めるため、受講生の総数を制限する場合がある。 取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

グローバルリーダーシップ (工学と経済)

Global Leadership (Engineering and Economy)

【科目コード】22200 【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】 【講義室】 【単位数】1

【履修者制限】有 【講義形態】演習 (講義を含む) 【言語】 【担当教員】和田 健司・Juha Lintuluoto 他

【講義概要】工学的視点から経済原則や経済概念、経済性工学について学ぶとともに、英語による講義と演習、グループディスカッション演習、およびプレゼンテーション演習 (インタラクティブラボ演習) を実施し、国際的สังคมで活用し得る英会話能力の習得をめざす。

【評価方法】出席状況、修得能力、プレゼンテーション能力、演習課題に関するレポートの内容、および期末試験により成績を総合評価する。

【最終目標】国際สังคมで通用するレベルの英語による科学技術コミュニケーション力ならびに工学と経済学の関係について基礎知識を修得する。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
	1~2	ガイダンスおよび経済性工学序論
	3~4	コストの概念と経済設計
	5~6	コスト積算技術
	7~8	金銭の時間的価値
	9~10	単一プロジェクトの評価
	11~13	代替案の比較と選択
	14~15	インタラクティブラボの総括および期末試験

【教科書】Engineering Economy: International Version, 14th ed. William G. Sullivan, 2008

【参考書】授業開始時に関連する参考書を紹介する。また、演習時に適宜資料を配付する。

【予備知識】英語を用いた演習に参加可能な英会話力を要する。

【授業 URL】<http://www.t.kyoto-u.sc.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】演習効果を最大限に高めるため、受講生の総数を制限する場合がある。取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

グローバルリーダーシップ (セミナー)

Global Leadership (Advanced Seminar)

【科目コード】24000 【配当学年】3年 【開講期】通年・集中 【曜時限】 【講義室】 【単位数】1

【履修者制限】有 【講義形態】講義および演習 【言語】 【担当教員】竹内 佐和子・佐藤 亨他

【講義概要】 科学技術を基盤とする国際的リーダーの養成を目標とした教育プログラムの一環として、先端科学技術の産開発現場での実地研修を通じて、科学技術の発展の流れを理解すると同時に、それらを説明する能力を高める。先端科学技術の研究開発におけるチーム組織と問題設定プロセス、市場予測方法、日本の伝統技術との関係、世界市場をリードする構想力など、技術要因だけではなく、関連の要因を含めたケーススタディを通じて、総合的な説明能力を向上させる。

【評価方法】 提出された小論文の内容、企業での実地研修・調査への参加、さらにグループワークを通じた課題の展開能力、課題分析から発展までの流れの作り方とケーススタディの開発、およびプレゼンテーション能力を含めて総合的に評価する。

【最終目標】 課題抽出からその解決へのプロセスを総合的に組み立てる能力の養成を目標とする。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
	1~2	オリエンテーション及び小論文によるグループ編成。
	3~6	ケース対象となる企業の選定（例：島津製作所、堀場製作所、村田製作所、オムロン、サントリーなど、京都地域の先端企業を中心に構成。）技術開発テーマ、開発経緯などについての質問事項を企業でのヒアリング調査に向けてまとめる。
	7~13	企業でのヒアリング、開発現場での調査（数ヶ所）
	14	社会的ニーズや技術予測の活用などについてのキーワードを抽出し、それに基づいてレポート作成する。
	15	レポート提出及びプレゼンテーション

【教科書】 必要に応じて指定する。

【参考書】 必要に応じて指定する。

【予備知識】 訪問する企業について事前に下調べとケーススタディについての知識が必要

【授業 URL】 <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】 履修登録方法などは別途指示する。グローバルリーダーシップ4科目の単位をすべて取得した者には修了認定証を発行する。取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

グローバルリーダーシップ (セミナー)

Global Leadership (Advanced Seminar)

【科目コード】25000 【配当学年】4年 【開講期】後期・集中 【曜時限】 【講義室】 【単位数】1

【履修者制限】有 【講義形態】講義および演習 【言語】 【担当教員】西本 清一他

【講義概要】科学技術を基盤とする新しい社会的価値の創出を目標として、少人数のグループワークを通じてコンパクトシティ、マン・マシン・インターフェース、サステナブルエネルギーのいずれかをキーワードとする課題の抽出・設定し、解決に至る方策を提案書の形式にまとめる。また、提案書の内容について素案から完成版に至る各段階で口頭発表会を実施し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。

【評価方法】各自が選択したキーワード毎に編成されたチーム内のグループ討議形式による課題の抽出と設定、目標達成に向けた解決策の提案、提案内容のプレゼンテーション、抽出された報告書を総合的に評価する。

【最終目標】課題の抽出・設定から社会的価値の創出を視野に入れた課題解決の提案まで、グループワークを通じて企画立案能力を養う。

【講義計画】

項目	回数	内容説明
	1	公募方式により、上記 ~ のキーワードからひとつを選択して小論文を作成・提出。
	2	オリエンテーションおよび基礎講義
	3	キーワード別の課題設定と問題抽出、ならびに合宿前の資料収集とグループワーク。
	4	課題解決の提案に向けてグループ毎に演習を実施。
	5~14 集中	2泊3日の合宿・討議形式による集中的なグループワークを通じて、課題解決に向けた提案を企画立案し、報告書原案を作成するとともに、2~3回のプレゼンテーションを実施。
	15	グループワークによる報告書の作成・提出。

【教科書】必要に応じて指定する。

【参考書】必要に応じて指定する。

【予備知識】グローバルリーダーシップ：序論を履修しておくことが望ましい。

【授業 URL】<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/undergrad/lectures/glprogram>

【その他】グローバルリーダーシップ4科目の単位をすべて取得した者には修了認定証を発行する。取得した単位が卒業に必要な単位として認定されるか否かは、所属学科によって異なります。

工学部シラバス 2010 年度版
([B] 建築学科)
Copyright ©2010 京都大学工学部
2010 年 4 月 1 日発行 (非売品)

編集者 京都大学工学部教務課
発行所 京都大学工学部
〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

デザイン 工学研究科附属情報センター

工学部シラバス 2010 年度版

- ・ [A] 地球工学科
- ・ [B] 建築学科
- ・ [C] 物理工学科
- ・ [D] 電気電子工学科
- ・ [E] 情報学科
- ・ [F] 工業化学科
- ・ オンライン版 <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/syllabus-s/>

本文中の下線はリンクを示しています。リンク先はオンライン版を参照してください。

